

# 畿央大学

開学10周年記念

## 畿央大学の地域連携活動



人間環境デザイン学科の三井田ゼミでは、2005年桜井市三輪地域を対象に景観まちづくりをテーマとして産学官民でより良いまちづくりをめざすプロジェクトに参加。その後2006年『三輪まち歩きときめきマップ』（小冊子）に学生の提案を掲載。2008年にはみんなでつくろう三輪駅前広場会議に参加し、駅前に観光案内板を作りました。



## 目次

地域連携活動の10年を振り返って	2
畿央大学の学部・学科構成	3
桜井三輪の景観まちづくり	4
御所市名柄旧郵便局舎改修	5
香芝市まちづくり提案	6
奈良県の食材を使ったレシピ開発	7
橿原商工会議所連携商品開発	8
2009年度 古代弁当製作	8
2010年度 万葉人からの贈り物	9
2011年度 観光おみやげもの開発	10
2012年度 スイーツレシピ開発	11
2013年度 橿原産ショウガを使ったレシピ開発	12
葛城地区広域商工会学生店舗調査モニター	13
下市町木工新製品開発	14
大淀町番茶事業活性化	15
結崎ネブカレシピ開発	16
不二製油 新豆乳クリームレシピ開発	17
畿央大学パッキングクッキング講習会	18
Kio 元気塾	19
広陵町特定検診・特定保健指導	20
橿原「ふれあい・いきいき祭」への協賛支援	21
カーブス骨密度測定・健康講座支援	22
「大豆パウンドケーキ」販売	23
JR西日本ハートイン弁当類販売	24
丸広出荷組合野菜成分研究	25
山添村おいね復活	26
寒冷紗エコカーテンの社会実験	27
エコールマミ商業施設提案	28
小学校科学クラブ支援	29
マミポコ・キッズ	30
マミポコ親子ひろば	31
高齢者向け子育て支援	32
「えほん展なら」への協力支援	33
平城京天平祭への協力支援	34
学校インターンシップ	35
離島・へき地看護医療体験実習	36
ウェルカムキャンパス	37
教職員のための夏の公開講座	38
畿央大学公開講座	39
講師派遣・講演会	41
やまとフォーラム	42
FEP ホール企画	45
畿央大学の連携先	49
畿央大学 研究者一覧	50

## 地域連携活動の 10 年を振り返って

地域連携センター長  
人間環境デザイン学科教授  
三井田 康記



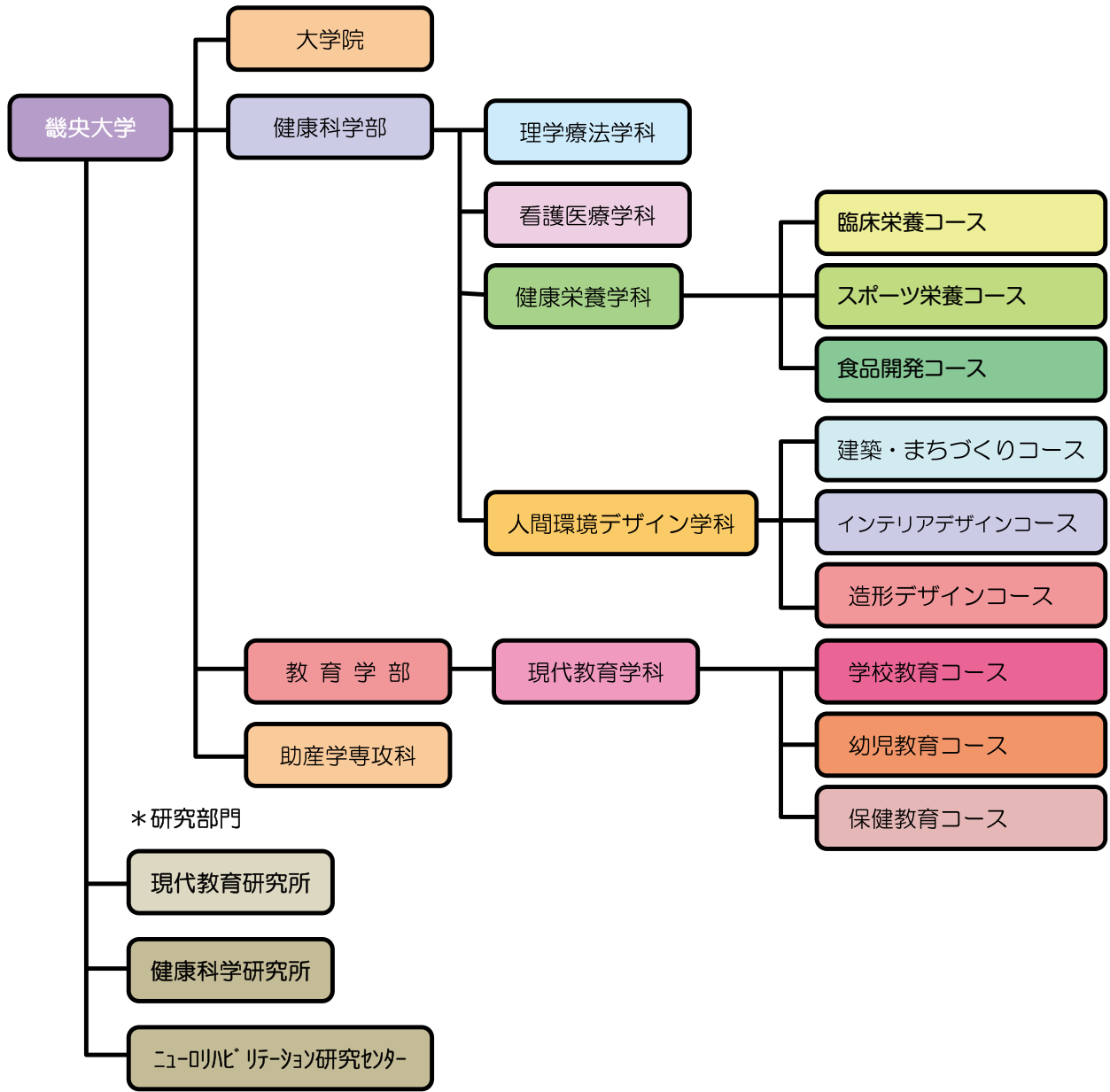
畿央大学の名前の由来は「近畿の中央」ということですが、奈良県においても主要都市部からほぼ中央にあたり、中南和地域に位置する唯一の総合大学として、近隣市町村および商工会、企業等のみなさまから地域の課題解決のためのご依頼をいただくことが多くなってきています。畿央大学のこれまでの地域連携活動がみなさまに受け入れられ、認知されてきた証であると安堵している次第です。

畿央大学の学生たちは、授業や実習だけでなく、自主的なボランティア活動はじめ様々な課外活動をとおして自分を磨き上げる「学び」にとっても積極的です。若い大学を支えているのは教職員だけでなく、学生の力が大きく、自分たちが畿央大学の歴史の礎を築いていくのだという気概をもっています。本誌に掲載したいろいろな連携活動はほとんどが学生たちが教員と協力して地域の課題を克服してきた足跡です。

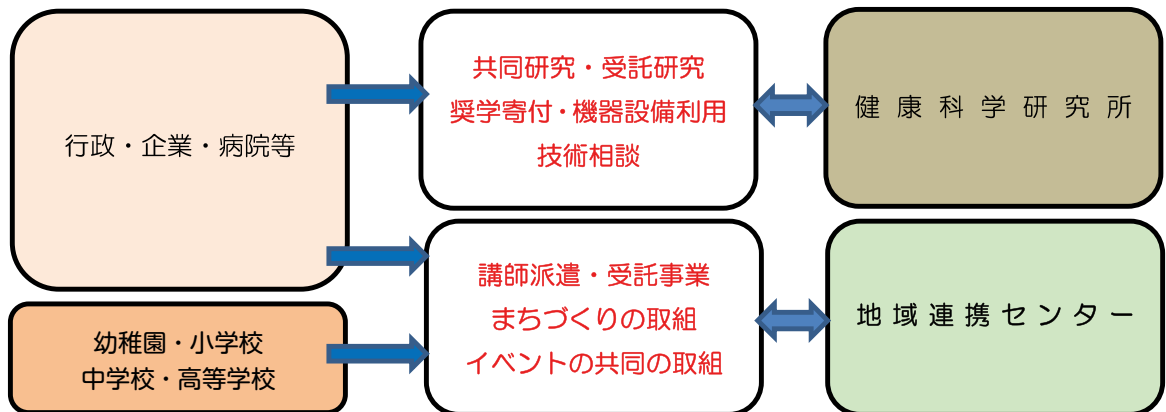
2013（平成 25）年度は、畿央大学が開学 10 周年を迎え数多くの記念イベントを実施しました。その最後を締め括るものとして、これまで畿央大学が連携した行政、団体、企業のみなさまに出展協力をお願いし、地域の方々を大学にお迎えして 12 月 8 日に「地域連携フェア」を開催しました。ご来場者は 1,500 名を超える盛況でしたが、教職員だけでなくゼミ生、学生自治会やクラブ・サークルの 300 名を超える多くの学生の協力があったからこそ実現できたものです。畿央大学は若い学生の力を伸ばし、地域社会に根ざして活動していくことが地域貢献の原動力になると考え、次の 10 年を見据えた新たな連携を模索してまいります。



(2013.12.8 地域連携フェアより)



地域連携センター（および健康科学研究所）の外部からの窓口としての役割



# 桜井三輪の景観まちづくりプロジェクト

年 度：2005（平成 17）年 4 月～2010（平成 22）年 3 月

連 携 先：奈良県桜井市三輪

三輪景観まちづくり協議会、三輪座

指導教員名：人間環境デザイン学科 三井田康記教授

協力学生数：人間環境デザイン学科 プロジェクトゼミ生

目 的：2005 年桜井市三輪地域を対象に景観まちづくりをテーマとして産学官民（三輪の住民や事業者の方々、三輪小学校児童および先生、奈良県風致保全課、桜井市都市計画課、地元まちづくり団体）と畿央大学人間環境デザイン学科教員・学生が協働しながら、三輪地域の魅力を再発見してより良いまちづくりをめざすことを目的としたプロジェクトに参加しました。

2006（平成 18）年は卒業研究として模型作りも含め提案プランに取組み『三輪まち歩きときめきマップ』（A5 判 30 頁小冊子、同協議会発行）に学生の提案を掲載していただきました。



成 果：地域のみなさんの目に触れるものとして 2007～2008 年は「みんなでつくる三輪駅前広場」会議に参加し、駅前に観光案内板を作りました。



2009 年は三輪駅前の古民家の改修に取り組み、2010 年 4 月にギャラリー工房「醸」KAMOSU として完成しました。今まで紙の上での設計デザインだったものがまるまる家 1 軒改築の実現物として出来上がったことは学生たちにとって感激の成果物となりました。



# 御所市名柄旧郵便局舎改修プロジェクト

年 度：2011（平成23）年4月～

連 携 先：御所市

指導教員名：人間環境デザイン学科 三井田康記教授、長井典子特任助教

協力学生数：人間環境デザイン学科 ゼミ生7名

目 的：御所市名柄地区は御所駅前から高鴨神社にいたる「葛城古道」の中間点にあたる長柄神社すぐのところに、明治時代に建てられた古い朽ち掛の今は廃墟となっている郵便局舎があります。御所市（東川市長、宮谷副市長）からの依頼でこの伝統的建築物を蘇らせ、葛城古道観光と物産のスポットとして、また名柄地区住民の寄り合い所として活用することを目的としています。この旧郵便局の左隣が『油断』『団塊の世代』などの著者、元通産官僚で大阪万博や沖縄海洋博を企画、元経済企画庁長官で現在も活躍されている堺屋太一氏の生家であり、その夫人も著名な画家であることから両氏の作品を展示できれば更なる地域活性化が期待できます。

成 果：2011年夏から現地で建物内外の実測を開始、11月には学生たちが作成した図面と模型を使って市長、副市長ら関係者に活用策をプレゼンしました。単に建物を復元するのではなく、住民や観光者にくつろぎの場を提供し生き生きと蘇らせる案に賛同していただきました。そして2012年7月には御所市長、副市長らと共に大阪にある堺屋氏の事務所を訪問し大学からの企画・提案説明に対して堺屋先生からのアドバイスをいただきました。また、2012年秋より毎年この旧郵便局舎周辺で若手芸術家育成と観光活性化のためのHANARARTが開催されており、畿央大学は参画・協賛しています。



# 香芝市まちづくり提案プロジェクト

年 度：2009（平成 21）年 4 月～

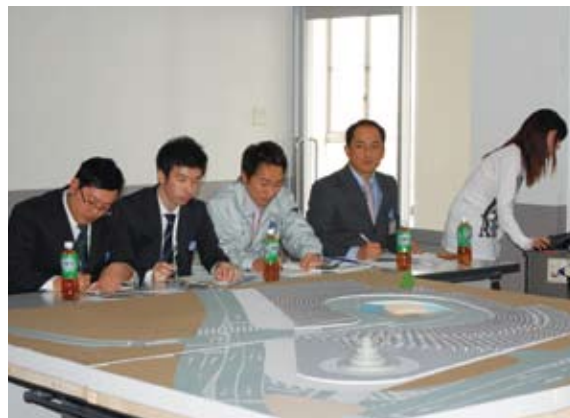
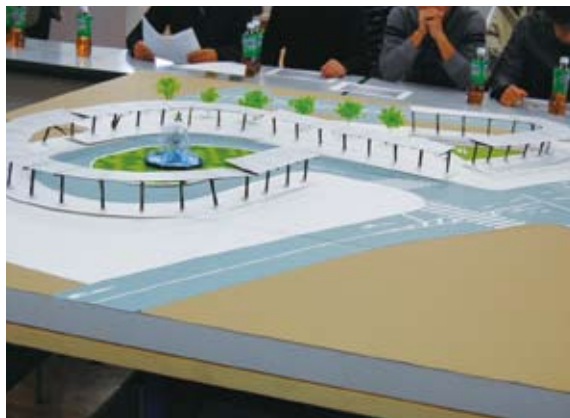
連 携 先：香芝市

指導教員名：人間環境デザイン学科 三井田康記教授

協力学生数：人間環境デザイン学科 プロジェクトゼミ生

目 的：2008 年に包括連携協定を締結している香芝市とは五位堂駅前整備計画や駅前から大学に通じるかつらぎの道、大学から道路を隔てた高塚地区公園整備、あるいは近鉄下田駅前広場ロータリー整備計画など街づくりの提案で協力しています。人間環境デザイン学科プロジェクトゼミのテーマとして相応しく、地域社会貢献にもつながり、ゼミ生にとっては生きた学びの素材を提供していただいています。

成 果：近鉄五位堂駅前周辺では、バス・タクシーなど車と人との共存方法や人の動線を考慮したアクセス方法、かつらぎの道では、安全安心に通行できる照明計画や休憩場の提案、高塚地区公園ではトイレの改修や舗装など学生目線で提案させていただきました。香芝市役所からは企画部、都市環境部の現場の方々を大学にお招きして学生たちのプレゼンテーション、CAD や制作模型で意見交換をしています。毎日通学しているのに気付かなかった問題点を再発見し、住民の方の立場で考えた住みやすい環境づくり、訪れる側として魅力ある香芝市と広陵町の街づくりを示すことができました。学生たちの作ったモデルがそのまま都市計画に取り入れられることはありませんが、一つの提案として行政側に意思表示できる機会を設けていただくことは学生の体験として大きなものになっています。



# 奈良県の食材を使ったレシピ開発プロジェクト

年 度：2013（平成 25）年 4 月～

連 携 先：奈良県中央卸売市場

指導教員名：健康栄養学科 上地加容子准教授

協力学生数：健康栄養学科 3 回生 給食経営管理論実習履修生 78 名

目 的：畿央大学と奈良県中央卸売市場（奈良県農林部）は 2013（平成 25）年 5 月 29 日に包括連携協定を締結しました。1977（昭和 52）年奈良県の台所として業務開始以来 36 年が経過し、時代の流れとともに大手スーパーやコンビニ、JA 農協、生協等が独自かつ巨大な流通チャンネルを持つなか卸売市場としての存在感が薄れつつあり、それに危惧する同市場が大学と連携して新たな食に関する情報発信のための取組みを模索することが大きな目的です。

成 果：奈良県中央卸売市場の取扱食材、規模や役割について前期授業、後期授業ともに市場関係者を講師として招いて勉強会を開催しました。教職員、学生対象に約 100 人前のランチを提供する給食調理実習は前期後期各 8～10 回あり、いずれも締め括りとして市場関係者を審査員に招いてレシピ発表会および試食品評会を行っています。



また、前期発表会レシピ作品のなかで好評だった「ひもとうがらしを使った大和のおかず（肉味噌）」と「大和ポークと大和丸なすを使った Kio バーガー」の 2 品で市場「食祭市」に出店し来場者のみなさんに各 200 人前を試食していただきました。2013 年 12 月開催の「冬の市場まつり」では「大和のぬくもりギュギュ牛鍋」約 170 食を 1 時間で完売しました。



# 橿原商工会議所連携商品開発プロジェクト

年 度：2009（平成 21）年 4 月～

連 携 先：橿原商工会議所

指導教員名：健康栄養学科 浅野恭代教授、人間環境デザイン学科 加藤信喜准教授、奥村亜希特任助教

協力学生数：参加希望学生 毎年 40～60 名

目 的：2009 年から橿原商工会議所および橿原市と連携し、同市の文化や名所旧跡、地産地消農産物などを踏まえたレシピ開発を行っています。このプロジェクトの特徴は、①最終目標は「商品化」による商工会議所傘下中小企業の振興、②数回の勉強会、③橿原市内見学会、④プレゼンによる説明力、⑤試食・審査によるコンペを行うことにより、単なるレシピ作りではなく学生の学び力を養う「過程」重視のプロジェクトです。また、商品化できたものは毎年 11 月下旬に近鉄百貨店橿原店で開催される「うまいもん市」で販売されます。学生に出されるテーマは毎年異なります。創作されたレシピについてはエントリーチームごとの写真とともにレシピ集として学生たちの活動経緯を形あるものに残しています。

## 2009 年度 古代弁当製作プロジェクト

目 的：橿原市にはこれといったお土産物や食べ物がありません。そこで大和伝統野菜、大和肉鶏、奈良県産古代米など奈良県産食材を 1 品以上使い、古都橿原にちなんだお弁当を製作、商品化して橿原商工会議所傘下企業が販売していくことになりました。

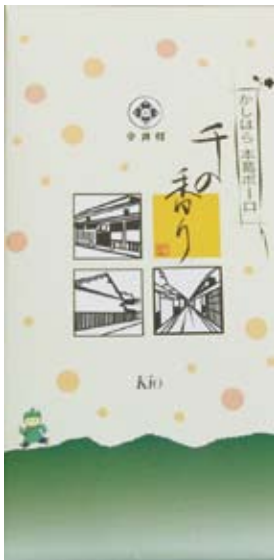
橿原の名所旧跡を知り、橿原らしいネーミング、パッケージ、原価計算、栄養バランス、カロリーなど総合的に勘案して学生らしい発想で商品開発に約 40 名の学生が取り組みました。

成 果：2009 年 6 月に説明会と勉強会 1 回、7 月に市内見学会と勉強会 2 回、夏休み明け 9 月に学内コンペを開催し、グランプリ賞を決定しました。Kio ロゴと橿原市マスコットこだいちゃんをあしらったお弁当の包装紙は、人間環境デザイン学科学生が作りました。近鉄百貨店橿原うまいもん市での販売デビュー前には橿原市長への表敬訪問も実現し新聞やテレビのメディア報道されて畿央大学と橿原商工会議所コラボ事業も認知されてきました。受賞作品「やまと恋うた弁当」は「割烹ふたかみ」（大和高田市有井）で今も販売されています。



## 2010年度 万葉人からの贈り物プロジェクト

- 目的： 橿原市らしいお菓子類のお土産物を作り、訪れる観光客や地元の方々にも橿原市の魅力を浸透させていきたい思いから「万葉人からの贈り物プロジェクト」が始まりました。今回の橿原市内見学で訪れたのは香具山の山麓にあるパワースポット月の誕生石や天岩戸神社などで、遠い昔々の万葉の世界に戻っての創造性豊かな発想の商品づくりに取り組みました。
- 成果： 連携2年目の2010年は学生約50名が参加しました。前年は夏休み後9月に学内コンペ実施となり11月近鉄百貨店うまいもん市まで商品化する時間が少なかったことの反省から、2年目は1月学生説明会、2月勉強会、そして4月以降勉強会を3回、橿原市内見学会、7月学内コンペを行う前倒しスケジュールとしました。洋菓子および和菓子職人による調理講習会の回数を増やすことによって完成度の高いレシピを実現しました。



本葛ボーロ“千の香り”は創業100年岩出湖月堂(橿原市出合町)、大和まなのタルト“月の誕生石”は近鉄八木駅前商店街のやさい菓子工房ココアイ(橿原市内膳町)で販売されています。本葛ボーロの包装紙は人間環境デザイン学科学生による作品です。今回は日持ちのする商品が生まれ、橿原市と姉妹都市である宮崎市の百貨店で翌年1月に開催された物産展で販売されることになり、グランプリ受賞メンバーには宮崎旅行がプレゼントされました。

## 2011 年度 観光おみやげもの開発プロジェクト

- 目的： 榎原商工会議所連携事業の3年目は引き続きお土産物作りとしていますが、従来食品の商品化ができたところで包装紙やパッケージの最終段階で人間環境デザイン学科学生によるデザインを取り入れていました。今回は「食部門」と「工芸部門」に分けて、食のおみやげとアクセサリや繊維製品を含むおみやげを創作する取組みにしました。健康栄養学科約60名、人間環境デザイン学科約40名の学生が参加する大規模なものになりました。
- 成果： 新1回生が参加しやすいように4月に募集説明会と1回目勉強会、5月榎原市内見学会と勉強会、6月勉強会と事前相談会、7月学内コンペのスケジュールで、コンペ前にプロの職人さんにアドバイスを受け、コンペ作品の完成度を高めました。この連携事業の特徴は地域で活躍されている学外講師の方々からコツや技を教えていただくことに加え、さまざまな専門家と直に接しその方の仕事にかかる情熱と人間性に触れて学ぶことです。



こだいちゃんペットボトルカバーとティッシュカバー

大和茶マシュマロ「大和の天雲」(やさい菓子工房ココアイ)、ペットボトルカバーとティッシュカバー(巽繊維工業所)、KASHIHARA お守りストラップ(出合の里 鹿や園)などが商品化となり、11月の近鉄百貨店うまいもん市で販売されました。

また、榎原市行政が中心になって2011年度第1回榎原市みやげ物発掘グランプリを公募しており、畿央大学はこのプロジェクトに出展した学生たちの作品を応募しました。その結果、一般応募総数190点のうち昨年度の「本葛ポーロ千の香り」と今回の「ペットボトルカバー」が佳作に入賞、応募全作品とともに小冊子に掲載されました。

## 2012 年度 スイーツレシピ開発プロジェクト

- 目 的：** 榎原商工会議所連携事業 4 年目はスイーツに特化したレシピ開発をテーマに健康栄養学科学生 18 グループ 58 名が参加しました。榎原市内の喫茶店や食事処でデザートにもでき、またお持ち帰りもでき、ちょっとしたお土産にもなるスイーツづくりをめざしました。4 回生になると就職活動と卒業研究や卒論に専念するため、本プロジェクトに参加する学生は 1～3 回生までの希望者だけで構成するので毎年入れ替わります。社会勉強の一環として楽しく学んで地域社会にも貢献する榎原商工会議所コラボ事業は畿央大学健康栄養学科の人気の課外活動になっています。
- 成 果：** 参加学生説明会、榎原市内見学会、3 回にわたる勉強会、菓子職人さんとの相談会、学内コンペ等は昨年度を踏襲しそのスタイルは定着してきました。健康栄養学科の学生はほとんどが管理栄養士の国家試験を受験するため、平日の授業はぎっしりですので勉強会はみんなが揃って参加できる午後 6 時頃から 8 時過ぎまでを充てました。教職員・学生および榎原商工会議所関係者のみなさんの熱意が感じられます。今回コンペへの出展作品は 20 で前年と同数ですが、年々レベルが上がっています。2012 年度第 2 回榎原市みやげ物発掘グランプリにも応募し、アマチュア部門で 2 作品が入賞しました。また、「山の神様」（イチゴ、抹茶、黒蜜きな粉の 3 種プリン）が近鉄八木西口駅前の好み焼き屋「花いちもんめ」（下段写真）で商品化となり販売されています。



## 2013年度 檀原産ショウガを使ったレシピ開発プロジェクト

**目的：**世界遺産への登録を呼びかけている藤原旧跡周辺の発掘現場で発見された木簡の中に生姜を意味する「薑根」（はじかみね）と書かれたものが見つかりました。その近くには当時、典薬寮と呼ばれる国営の薬草園があったとされていて、生姜が太古から身近な存在であったことがわかっています。そこで最近檀原市においても生姜が生産されることになり、同市産業振興課では生姜生産とともに食材・加工品販売に力を入れるため今回のテーマに選ばれました。

**成果：**連携5年目も例年どおりの市内見学会、勉強会を重ね、18グループ42名の学生がコンペに20作品を出品しました。今までと違う点は商工会議所が最初から商品化に意欲のある業者を厳選することにより学生たちにその業者をピンポイントでターゲットとするよう仕向け、創作レシピがマッチングしやすい仕掛けを施してくれたことです。そのおかげで6グループが7業者と商品化にこぎつけました。夏休み期間中もレシピの詳細や包装紙デザインの打合せを1作品につき3～4回実施し、学生と業者双方が納得する商品が誕生しました。

学生と業者さん全員で檀原市長を表敬訪問し商品完成報告を行ない、市推奨商品認定式を経て近鉄百貨店檀原店うまいもん市で7商品が販売デビューしました。(2013.11)



また、ショウガが生産と出来上がった商品の販売 PR のため檀原市広報 11月号の巻頭6ページを割いて産官学でショウガを使った商品開発の様子、商品および発案学生と業者の写真などを13万人全市民むけに広報していただきました。(写真右:近鉄百貨店檀原店うまいもん市の展示ブース前で森下檀原市長、後方は7業者含む16ブースが出店)



# 葛城地区広域商工会学生店舗調査モニター

年 度：2009（平成 21）年 4 月～

連 携 先：葛城地区商工会広域協議会

指導教員名：人間環境デザイン学科 加藤信喜准教授

協力学生数：人間環境デザイン学科 加藤ゼミ生数名、年間 1～2 回

目 的：葛城地区商工会広域協議会では傘下事業者の活性化をはかるため、若い学生目線で店舗の商品ラインアップ・陳列や客動線、サービス内容全般について意見を聞きたいということで 2009 年度から年 1～2 回のペースで店舗モニターを実施しています。花屋、ケーキ屋、喫茶店、中華料理店、洋食店、コンビニエンスストア、織物業、旅行社、民宿など多種多彩な業種にチャレンジしており、もともとモニター希望先は事業発展意欲の高い事業主の方が多く、学生・教員のアイデアや感想を快く受け入れていただいています。

成 果：調査内容は、店舗（内装、雰囲気、インテリア）、商品（外見、風味、品揃え、価格）、広告宣伝（看板、ちらし広告）、接客（接客、商品知識、服装）、売上増対策（HP ブログ活用、ネット販売）、など多岐にわたり学生一人ひとりが数枚のレポートにまとめ、商品や店舗のデザイン画を付けるなど工夫を凝らしたものになっていて事業主様からは好評を得ています。学生の提案に賛同して店舗内照明器具をその学生の制作デザイン器具に変更してくれたところもあり、学生たちにとっても大きな励みになっています。



— before —



— after —

花屋さんの店舗改装案を提示して、実際に図面を引いたり模型を作って事業主様に説明する機会を与えていただいたこともあります。使い勝手が悪い箇所や顧客へ訴えるディスプレイを採り入れるリニューアル提案をすることもあり、真摯に取り組む学生と教員の姿勢がこの企画の長続きの秘訣かもしれません。



# 下市町木工新製品開発プロジェクト

年 度：2010（平成22）年4月～2011（平成23）年3月

連 携 先：下市町商工会

指導教員名：人間環境デザイン学科 加藤信喜准教授

協力学生数：人間環境デザイン学科 加藤卒研ゼミ生5名

目 的：吉野杉を活用した特産品「三宝」と「割り箸」は古く南北朝時代（1336年～1392年）から続いている下市町の伝統産業ですが、今ではそれらの需要が減退したり外国産の安価な商品に代替されたりして落ち込んでいます。その技術を応用して時代にマッチした新製品を作り広めていく「平成22年度地域資源全国展開プロジェクト」に参加しました。三宝や割り箸の工房、杉の森林保全の状態・実情を見学することにより町おこしにかかる地元の人々と「木」のぬくもりに触れることができました。

成 果：2011年2月初めに東京有明のビッグサイトで行われる「インターナショナル・ギフトショー2011」への出展に焦点を合わせていろいろな新製品を開発しました。また、製品に付加価値を付けるためまず下市製品の差別化をはかる「下市 ORIGINAL COLLECTION」の統一ブランドマークを作りました。箸の断面を五角形にした合格割箸（ごうかくかつばし）を考案し商品化しました。



ギフトショーでのディスプレイは加藤先生が担当され、杉で出来た二段弁当箱、利休箸、箸置き、おちょこ、名刺入れ、合格割箸など斬新なデザインの新製品の数々の中に、ゼミ生創作の照明器具も展示され来場者の目を惹きつけました。また、2月中旬には地元下市中学校3年生へ高校受験合格を祈念して合格割箸の贈呈式が行われ、その後毎年実施されています。



# 大淀町番茶事業活性化プロジェクト

年 度：2010（平成22）年4月～

連 携 先：大淀町商工会

指導教員名：健康栄養学科 岩城啓子教授、喜多雅子講師、吉居尚美助手\*、金一玲助手

協力学生数：教員のみ（吉野大淀日干番茶成分分析）

目 的：奈良県内では古くから茶粥として番茶が用いられていますが、時代の変遷とともに生産量減少が著しく茶粥や飲茶だけでは生産が途絶えてしまう危惧があります。そこで大淀町商工会では地域資源全国展開プロジェクトの助成を得て、大淀町の産品である「吉野大淀番茶」を使った創作レシピが商工会傘下の飲食店等で考案されており、その製商品の磨き上げのため畿央大学に番茶成分分析とレシピへのアドバイスを依頼してきたものです。

成 果：大淀町の番茶は天日干しという乾燥製法から「大淀日干番茶」と言われ、特に香りがよいのが特徴です。成分分析結果、煎茶やヘルシア緑茶と比べてカフェイン、カテキンともに少なく、たくさん飲んでも飲みやすく渋み成分が非常に少ないことから胃に負担がかかりにくいことがわかっています。香りがよいことから交感神経活動に対して鎮静化効果が大いに期待できストレス軽減に役立ちます。この実験結果については大淀町商工会のホームページで公開されています。2011年2月に行われた事業成果報告会では町の旅館・飲食店・主婦らみんながまちおこしのために試作した絶品番茶レシピについて創作者によるプレゼンテーションと試作調理品現物の展示が関係者を一堂に会して披露されました。



また、2010年、2011年の10月下旬の畿央大学学園祭「畿央祭」では大淀町商工会とタイアップして番茶リゾット試食や番茶試飲を行いアンケート調査しました。





# 結崎ネブカレシピ開発プロジェクト

年 度：2012（平成 24）年 10 月～2013（平成 25）年 1 月

連 携 先：川西町商工会

指導教員名：健康栄養学科 上地加容子准教授

協力学生数：健康栄養学科 2 回生 給食経営管理論実習履修生 78 名

目 的：川西町では経済振興と知名度アップのため大和伝統野菜である地元特産品結崎ネブカ（根深太ネギ）を農家と契約生産・買上げ方式によってブランド化してきました。結崎ネブカの持つ強みである高い栄養素を活かした健康調理、弱みである保存方法の検証や加工食品の試作開発などについて、畿央大学健康栄養学科との連携によって、新しい食べ方、調理レシピを地域のみなさんに紹介していきたいとの要望にお応えするため、給食経営管理論実習の後期授業のなかで取り組むこととしました。

成 果：食材の結崎ネブカはまだ生産量も少なく川西町商工会からその都度持ち込んでいただき、給食経営管理論実習授業での約 10 回の昼食メニューのなかで、結崎ネブカを使用したレシピが作られました。履修生 78 名は 8～10 名を 8 つに班分けされ、試作と実際のランチ提供の 2 回調理を行っており合計 20 作品が考案されました。8 班のランチ提供が終わった 9 回目、平成 25 年 1 月 15 日に川西町副町長、産業振興課員、商工会長、料理研究者らを審査員に迎え『結崎ネブカレシピ品評会』を開催しました。当日の資料として手作りのレシピ集を配付、その後品評会での優秀作品を中心に印刷製本した小冊子「畿央大学健康栄養学科の学生が考案した 結崎ネブカ新感覚レシピ集」が発刊されました。



# 不二製油 新豆乳クリームレシピ開発プロジェクト

年 度：2013（平成 25）年 4 月～2014（平成 26）年 2 月

連 携 先：不二製油株式会社 大阪府泉佐野市住吉町 1 番地

指導教員名：健康栄養学科 浅野恭代教授

協力学生数：健康栄養学科 参加希望学生 72 名

目 的：油脂と大豆たんぱくを原料とする食品素材大手の不二製油（伊藤忠グループ）が世界初の特許製法でつくった新豆乳クリームを使ったレシピ開発です。新豆乳クリームは卵黄や生クリームと比べて低カロリーで、他の食材と組み合わせてもその食材本来の味が損なわれず食材の持ち味を活かすことができるのが特徴で、食品加工の幅が広く和洋中からデザートまで何にでも使える夢の素材として世界の食品業界から注目されていて、同社では食品加工メーカーに有力加工食品素材として売り出そうとしています。畿央大学と同社はかねてから大豆に関係する共同研究先であったことからこのレシピ開発で連携することになりました。

成 果：7 月 4 日には新豆乳クリームの特徴を学生たちに理解してもらうための説明会が料理研究家松村佳子氏、企画会社村山浩之氏らによって開催され、10 月、11 月の初旬に 2 回の勉強会、11 月 16 日に学内コンテストが実施されました。



最優秀賞「麻婆豆乳しろくまくん」(左)、スイーツ部門賞「おしるこフォンデュ」(中)、グローバル部門賞「舞妓はんのおもてなし」(右) やベジタブル部門賞、ネオ和食部門賞、洋食部門賞が選ばれ、全 24 作品はレシピ集として 2014 年 2 月に発刊されました。

# 畿央大学パックフッキング講習会

年 度：2008（平成 20）年 8 月～

連 携 先：健康栄養学科独自取組

指導教員名：健康栄養学科 浅野恭代教授

協力学生数：健康栄養学科 ボランティア学生数名

目 的：「パックフッキング」とは、火を使わない真空調理の家庭版で、材料をポリエチレン袋に密封して電気ポットで調理する方法です。焦がすことなく、煮くずれもしにくく、一人分のお粥やおかずを同時に作ることができます。また、介護をしながら、掃除をしながら、他の作業をしながら調理ができる、とても安全・便利な少量調理法です。

専門介護員やケアマネージャーとしてご活躍されておられる方で生活支援の中で困っておられることの対策として、また、以前に行った調査に於いて、調理がひとりではできない方、火が使えない方の食事作りが大変であるという意見が多くあったことから簡単調理方法としてのパックフッキングを取り入れていただくため、毎年夏休みの時期に講習会を開催しています。

成 果：このパックフッキング講習会は、回を重ねるごとに受講希望者数も増え、メニューも充実してきました。年齢層も 30 歳代から 80 歳代と幅広く、近年男性の参加が目立って増えています。料理が苦手、調理する時間がないと思われる方、また、一人暮らしやご夫婦のみで生活されておられて、少量調理が難しいと思っておられる方々の受講が多くなってきています。講習会は 10 時から始めて出来上がると 12 時前頃からみんなで食べて、後片付けして終了です。約 40 名が 8 つ程度の班に分かれて行なう共同作業となるので、知らない方でも打ち解け合って美味しい料理が食べられる人気の講習会となっています。



# Kio 元気塾プロジェクト

年 度：2008（平成 20）年 4 月～

連 携 先：畿央大学独自取組

指導教員名：理学療法学科、健康栄養学科の教員多数

協力学生数：理学療法学科 3 回生、健康栄養学科学生中心に 50～60 名

目 的：理学療法とは主に交通事故や脳卒中などで不幸にも身体機能障害が残った方に基本的動作機能回復のための治療運動を行なうことです。理学療法学科の学生は国家資格試験を受験して病院等に勤務しますが、在学中は実習で近隣病院で訓練を積むことになっています。

退院された患者さんで在宅リハビリに取り組んでいる方を大学にお招きし、教員と学生が一緒になって機能回復のための運動を行ったり、栄養指導などを実施しています。大学にとってはリハビリ機器が揃った構内において 3 回生を中心に患者さんの症状に応じて対処法を学ばせることができます。また、患者さんにとっても近所の大学でリハビリできることから大変喜ばれています。

成 果：患者さんと接するにはコミュニケーションが大事でそのスキル向上とともに、教員指導のもとで患者さんごとに異なる症例に対する理学療法評価を実際に行なうことによって実践的な学びの場になっています。リハビリ運動を続けるには体力をつけるための食事療法も欠かすことができません。諦めずに治療を継続することで機能回復に繋がったという患者さんは多く、畿央大学の専門分野である理学療法学と健康栄養学を活かし専用施設を開放して地域社会に貢献しています。



## 広陵町特定検診・特定保健指導プロジェクト

年 度：2010（平成 22）年 4 月～

連 携 先：広陵町（保健センター）

指導教員名：健康栄養学科 浅野恭代教授、理学療法学科 瓜谷大輔助教、松本大輔助教

協力学生数：学部生約 30 名

目 的：特定検診・特定保健指導とは 40 歳から 74 歳までの公的医療保険加入者全員を対象とした保健制度のことで一般にはメタボ健診といわれています。腹囲の測定および BMI 算出を行い、基準値以上の人はさらに血糖、脂質、血圧、喫煙習慣有無から危険度によりクラス分けし、クラスに合った保健指導が行なわれています。健康科学に強い畿央大学では地元広陵町（保健センター）と連携し、上記項目のほかに骨密度、身体組成、身体機能（筋力、柔軟性、バランス、敏捷性、活動量）、運動習慣アンケートなど健康科学部教員の研究にも資する測定項目を追加して実施しています。この点が他市町村が行なう特定健診・特定保健指導とは異なり、地域住民の方々にきめ細かなサービスの提供となっています。

成 果：特定健診の受診者を対象に行なわれる体力測定、健康指導とともに、生活習慣病改善のための運動教室が月に 1～3 回のペースで行なわれ、本学教員が講師となって疾患や食生活など生活習慣に関する講座、ストレッチ・筋力トレーニング・バランストレーニングなど運動の実践（元気アップ教室）について指導しています。（また、対象は異なりますが別に年間 40 回程度、広陵町社会福祉協議会と連携し、デイサービス利用者に集団体操を中心にした理学療法指導も行なっています。）



## 橿原「ふれあい・いきいき祭」への協賛支援プロジェクト

年 度：2011（平成23）年10月～

連 携 先：橿原市

指導教員名：理学療法学科 瓜谷大輔助教、健康栄養学科 浅野恭代教授

協力学生数：ボランティア学生約30名

目 的：だれもが自分に合った健康な生活をおくるために、健康づくり活動の促進や、医療体制の充実を図ることに加え、安心して子どもを産み育てることができる環境づくりとその健やかな成長を見守ることが必要です。また、橿原市では高齢者や障がいを持った方をはじめ、全ての方がお互いに支え合える環境・安心して生活できる福祉のまちづくりをめざしています。畿央大学、医師会、歯科医師会をはじめ多くの団体が橿原市の健康と福祉に関する理念に共感して毎年参加しています。

成 果：当日は午前8時には大学から骨密度、身長、体重、長座体前屈、手および足趾握力などの測定機器や前日までに作った試食用健康食品（豆乳クリームやテンペ）を搬出して準備しました。「いきいき祭～健康と社会福祉の祭典～」と銘打っただけあって、かしはら万葉ホール1階から5階までの広い会場ブースは来場者でいっぱいになります。



畿央大学は学生に対する授業や専門分野の研究を行なうだけでなく、一般の方々がその成果を享受し健康で長生きする実感をもっていただくことが大きな社会貢献であると思っています。こうした地域に根ざした活動を継続して行なうことで畿央大学をみなさまに知っていただき、次のステップに進めるものと考えています。

## カーブス骨密度測定・健康講座支援プロジェクト

年 度：2011（平成23）年4月～

連 携 先：カーブス広陵馬見店 奈良県北葛城郡広陵町馬見中4-1 エコールマミ北館2階

指導教員名：理学療法学科 松本大輔助教、健康栄養学科 喜多雅子講師

協力学生数：ボランティア学生（骨密度測定時、毎回5～8名程度）

目 的：畿央大学の東隣の商業施設エコールマミ北館2階にある、女性専用フィットネスクラブ“カーブス”と連携してクラブ会員向けに骨密度測定会と健康講座を開講することによって健康な身体づくりに励む女性を応援しています。畿央大学としては幅広い年代の女性の方々の骨密度測定データが時系列で継続的に取得でき研究に生かせることができます。

また、カーブス広陵馬見店は2010年新規開店時から順調に会員数を伸ばし続けており2013年度は600名を超えています。ほとんどの会員は当然広陵町・香芝市の同社店舗の近隣地元住民であり、健康を科学する学部をもつ畿央大学に対して好印象をもっている方々です。カーブスおよび本学とのコラボにより相乗効果が期待できます。

成 果：カーブスは、手軽に誰でも何歳でも、1回わずか30分、予約不要で好きな時間に、女性だけの安心サポートをキャッチフレーズに会員を伸ばしています。逆に言えば長続きしている会員が多く、個人の骨密度測定データを継続比較することができるとともに結果を納得のいくフィードバックをすることにより改善されていくケースが多いといえます。



また、管理栄養士（本学教員）による栄養指導フードモデル「食育サツとシステム」を使った日々の食事相談会や理学療法士（本学教員）による健康運動指導などの講座を組み合わせ実施しています。



# 「大豆パウンドケーキ」販売プロジェクト

年 度：2009（平成 21）年 4 月～

連 携 先：株式会社植嶋（菓子類卸販売） 奈良県生駒郡斑鳩町竜田 2 丁目 2 番 11 号

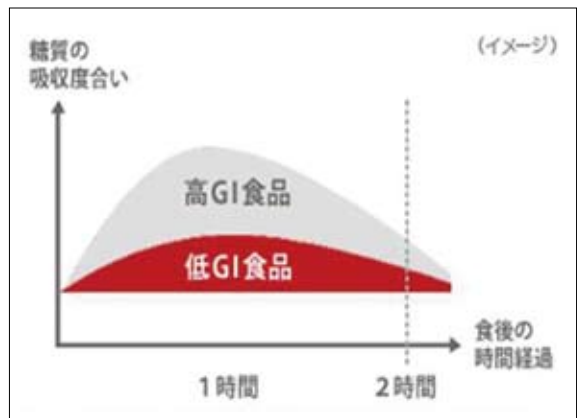
指導教員名：健康栄養学科 森友彦教授\*

協力学生数：健康栄養学科 卒業研究ゼミ生 毎年数名が卒論テーマとして課題研究

目 的：食物繊維、大豆たんぱく質、大豆ペプチド、イソフラボンなどの成分が健康に有効であることは広く知られていることですが、特に血圧・血糖値を抑制しコレステロールを調整する機能に着目して開発されたのが大豆パウンドケーキです。通常小麦を主原料とするところを大豆粉にして、つなぎに葛を使用することによってより大きな相乗効果を引き出しました。大阪・奈良に広い販売網をもつ植嶋との事業連携によって、小麦アレルギーや糖尿病の方、肥満予防、高血圧・血糖値を気にされている方々にもやさしい\*低GIスイーツとして市販することができ、プレーン味に加えて大和茶・オレンジ・しょう油の4種の味が楽しめます。

\*低GIとは、グリセミック・インデックスの略で、炭水化物を含む食品を食べたときの、血糖値の上がりやすさを表した指標のことで、この数値が低ければ血糖値の上昇は緩やかで、逆に高ければ血糖値が上昇するというものです。大豆はGI値が比較的低いことから注目されています。

成 果：大豆を使った健康食品として開発されましたが従来の小麦パウンドケーキと遜色ない食感と値ごろ感で消費者に受け入れられています。大豆パウンドから出発して「大豆ロールケーキ」も作られていて“大豆ワールド”の広がりをみせています。



2010年6月と2011年9月には高島屋新宿店、2011年3月には高島屋大阪店で開催された「大学は美味しい！！フェア」（全国から約30大学コラボ商品が勢揃い）に参加出店し、学生たちがデパートでの販売体験をしながら産学連携の成果をPRしました。→





# JR 西日本ハートイン弁当類販売プロジェクト

年 度：2013（平成25）年4月～2014（平成26）年1月

連 携 先：(株) JR西日本ディリーサービスネット、(株)日本アクセス、(株)サンデリカ、カネ美食品(株)

指導教員名：健康栄養学科 喜多雅子講師、餅田尚子助手

協力学生数：食育研究会およびヘルスチーム菜良を中心とする参加希望学生約40名

目 的：畿央大学生（管理栄養士のたまご）が考案したお弁当・丼・おにぎりを近畿一円に販売網を持つ JR西日本ハートイン・キヨスクの駅中コンビニで販売するという連携先4社からの提案にもとづき立ち上がったプロジェクトです。これらハートインのグループは、管理栄養士養成課程をもつ大学とのコラボ第1弾が京都光華大学で、その後大阪相愛大学、神戸学院大学と一緒に栄養バランスを考えた弁当・丼・おにぎりを期間限定販売していくプロジェクトを組んでおり、第4弾として奈良では畿央大学が選ばれました。

このプロジェクトの特徴は、学生たちの自由な発想を重んじ購買対象者をイメージさせたコンセプトで連想ゲームのように献立を創作していくところにあります。学生たちに弁当・丼・おにぎりの試作をさせ、それが調理工場で製造可能か、製造は採算が合うか、駅中コンビニ販売にマッチするか、など何度も何度も協議（勉強）させてくれたことが正に企業による学びの提供そのものでした。

成 果：プロジェクト参加学生募集後、7月中旬のキックオフから夏休み期間中も約10回の打合せを重ねました。ポスター・チラシ印刷用のためのグループ写真撮影、動画撮影など広報用最終調整を経て出来上がったものを見て、また実際にハートインやキヨスクで購入した学生に聞いたところ「楽しかった、いろいろ勉強になった」など効果満点のプロジェクトとなりました。前半12月11日～24日、後半1月8日～21日に分けて販売され好評を博しました。

**管理栄養士のたまごが考えた バランス弁当**

第1弾

2013年12月11日(水)  
2013年12月24日(火)

はしより愛嬌 いつもの献立 弁当 ¥430 772kcal

はんなり ええ味 彩り弁当 ¥430 565kcal

ラタyou 丼 ¥380 354kcal

金賞 1201

銀賞 1201

KIO × Heart-in Kiosk

**管理栄養士のたまごが考えた バランス弁当**

第2弾

2014年1月8日(水)  
2014年1月21日(火)

カップル かんぱし 弁当 ¥430 562kcal

満腹! 大阪 献立 弁当 ¥430

691kcal

380 428kcal

学生おにぎりコンテスト大賞!

金賞 1201

銀賞 1201

KIO × Heart-in Kiosk

# 丸広出荷組合野菜成分研究プロジェクト

年 度：2006（平成 18）年 4 月～

連 携 先：農事組合法人 丸広出荷組合 奈良県北葛城郡広陵町大字南郷 3 8 0 - 1

指導教員名：健康栄養学科 南幸教授\*、栢野新市教授、浅野恭代教授

協力学生数：教員のみ

目 的：奈良県広陵町では茄子の生産が盛んで、近年では肉質が柔らかく外皮が薄く生食でも美味しい「やまと小町サラダ茄子」に力を入れている農事組合法人丸広出荷組合と、その茄子の抗酸化性など成分分析と野菜を使った加工食品レシピ開発などについて連携しました。同組合は全組合員が有機肥料と減農薬で栽培するエコファーム認定を受けており、環境保全型農業をめざしています。また、組合ホームページで全野菜の栽培農家の方々の写真を掲載し顔の見える生産者を志向しています。畿央大学は地元広陵町の農業発展のため、またこのような安全・安心な野菜を使った加工食品の製造・販売を支援しています。

成 果：広陵町特産の「やまと小町サラダ茄子」は肉質が柔らかくアクが少ないため、生食に適しています。大学で行ったやまと小町の抗酸化性についての実験研究の結果、果肉と果皮の重量比と抗酸化性の関係では重量が少ない果皮に多くの抗酸化性物質が含まれていることがわかりました。



	重量(%)	抗酸化性(%)
果肉	88.3	45.9
果皮	11.7	54.1

加工食品レシピ開発では茄子を使ったジャムやトマトジュースの製法などを研究して商品化しています。地元広陵町では人気の高い、採れたて新鮮野菜の常設直売所「こーちゃん広場」で販売されています。



## 山添村おいね復活プロジェクト

年 度：2011（平成 23）年 4 月～

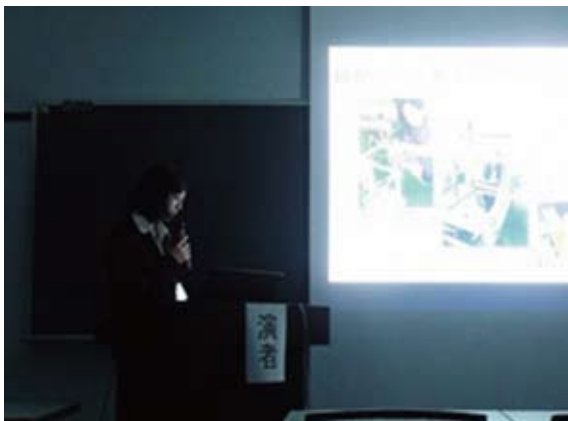
連 携 先：山添村観光協会、大和高原文化の会、社会福祉法人青葉仁会

指導教員名：人間環境デザイン学科 村田浩子准教授

協力学生数：人間環境デザイン学科 村田卒研ゼミ生

目 的：昭和初期の頃まで養蚕が盛んだった山添村で、繭から糸づくりを研究していた村田ゼミでは、この村には昭和 30～40 年代まで「おいね」という防寒具があったことわかりました。着古した着物をパッチワークのように縫い合わせ綿を仕込んで温かく、農作業がしやすいように両肩に背負うような形になっています。背負うことを「おいねる」といい、「おいね」が誕生したそうです。このような先人の知恵の防寒具を今風のものに蘇らそうと村田ゼミが中心になって山添村のみなさんの協力を得て活動しています。

成 果：山添村にあったおいねの原型をもとに卒研ゼミ生が研究を重ね復活しました。次年度の学生がもっと現代風アレンジし普段でも着てもらえる形にして普及活動を行うようになりました。



2012 年 10 月、奈良女子大学で開催された日本家政学会で村田ゼミ 4 回生が発表し、会場の方から今後の発展に期待するとコメントされたことに感動を覚えたそうです。

カメさん、カエルさん、ブタさん、タヌキさんなど可愛い動物シリーズの創作「おいね」が人気です。My おいねを作る教室も山添村などで開講しています。



# 寒冷紗エコカーテンの社会実験プロジェクト

年 度：2011（平成23）年4月～2012（平成24）年2月

連 携 先：丸山繊維産業株式会社

天理市長柄町695番地（本社・工場） 奈良市光明院町5番地（ショールーム）

指導教員名：人間環境デザイン学科 佐藤昌子教授\*

協力学生数：人間環境デザイン学科 佐藤卒業研究ゼミ生3名

目 的：奈良は古くから奈良蚊帳や布巾、襖地の生産地でしたが、時代の移り変わりとともに農業用寒冷紗製造が主になり、また需要も減少し廃業する業者も多いのが現状です。その中で天理市に本社を置く丸山繊維産業(株)（丸山欽也社長）は、奈良蚊帳生地の一貫生産（糸を仕入れ巻にして機織り、染色）を奈良で唯一手掛ける企業です。奈良市もちいどの商店街・ならまちの一角に、各種ラッピング用品や文具生活雑貨染色製品を開発・販売するテナントショップ「ねっとわーくぎゃらりーならっぷ」をオープンしており、寒冷紗生地などの用途開発で連携しました。人間環境デザイン学科では従前から三井田ゼミが吉野の景観・町づくりで吉野まちづくり協議会と連携している関係から吉野町での実験となりました。

成 果：5月下旬吉野山蔵王堂に程近い5軒のお店や旅館を回りサイズや柄について打合せを行い、7月に設置しました。吉野山では今もいくつか残っているのですが、店前の道路上に西日や雨雪除けテントを張り巡らせていましたが年数とともに色が変わって古くなったり亀裂が生じて景観上もよくなく、また維持経費がかかることから放置されているものも多くありました。そこで遮へい性、色柄加工が可能で経済性にも富む寒冷紗の特性を活かしたエコカーテンで吉野山を彩るという社会実験に挑むことになりました。実験に参加していただいた5軒のご主人はその趣旨に理解していただき従前使用していた暖簾をはずして寒冷紗エコカーテンに掛け替えていただきました。



参加学生は卒業論文テーマとし寒冷紗カーテンの内側と外側の気温・湿度などを測定し効果測定を行い有効性を実証しました。その後丸山繊維産業は同社ネット店舗および奈良市のならまち・もちいどの商店街一角にあるテナント店舗において、色・柄・サイズ豊富な暖簾・カーテンとして注文販売しています。



# エコールマミ商業施設提案プロジェクト

年 度：2009（平成 21）年 4 月～

連 携 先：エコールマミ（株式会社関西都市居住サービス エコールマミ営業所）

指導教員名：人間環境デザイン学科 加藤信喜准教授

協力学生数：人間環境デザイン学科 加藤ゼミ生

目 的：畿央大学の東側道路を挟んで位置するショッピングセンター「エコールマミ」と連携して同施設内のアメニティー改善提案を定期的に行っています。学生たちにとってお客様の目に即座に触れ反応を知ることができる生きた勉強であり、遣り甲斐のあるプロジェクトです。施設面積が広く素材は無限にあります。一時的に空き店舗が発生すれば入居があるまでショーウィンドーに自由に飾らせていただいたり、季節の変化に応じて模様替えしたりと、運営者のみなさまとワークショップを持ちつつ夢を膨らませることができます。

成 果：畿央大学人間環境デザイン学科では「ユニバーサルデザイン」という、文化・言語・国籍の違い、老若男女といった差異、障害・能力の如何を問わずに利用することができる施設・製品・情報の設計（デザイン）の基本思想を採り入れており、商業施設の誘導案内板・スロープ・階段・トイレの改修などを学生目線から提案しています。同施設運営者の方々を前に模型やデザイン図、パワーポイントを使ってプレゼンテーションを行うことによってより多くの方々から批評していただけることが学生にとって有意義な学びになっています。



また、季節ごとのイベント用として催しものフロアをお借りして飾りつけを行い、来場者のみなさまから喜んでいただいています。



# 小学校科学クラブ支援プロジェクト

年 度：2012（平成24）年4月～

連 携 先：広陵町立真美ヶ丘第2小学校

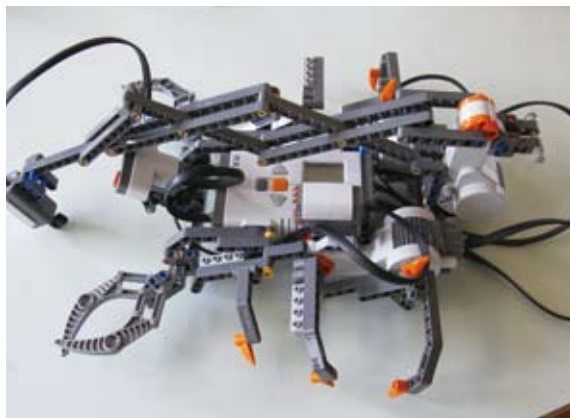
指導教員名：現代教育学科 奥田俊詞准教授、看護医療学科 福森貢教授

協力学生数：現代教育学科 奥田ゼミ生数人

目 的：畿央大学から北へ約400m、徒歩5分の真美ヶ丘第2小学校科学クラブの放課後活動を支援するため、大学から出張授業を行なっています。2012年度は子どもたちに科学技術・理科・数学に対する興味・関心と知的探究心を育成する目的で、独立行政法人科学技術振興機構のサイエンス・パートナーシップ・プロジェクト（SPP）に応募・選定され、「マミポコ・子どもサイエンス ロボットを作ろう！」を実施しました。教材にはレゴの組み立てロボットを使用、プログラミングを施すことによって製作者の意思どおりに動くメカニズムを体験してもらう授業（年間10回）を行ないました。

そして、2013年度はレゴ・ロボットだけでなく、万華鏡やコマなど従来の理科教材も取り入れ、子どもたちが興味をもって楽しく学べる課外授業を実施しています。

成 果：4～6年生25名ほどで構成される科学クラブは人気が高く、毎年入替制で新メンバーになります。教育学部の学校インターンシップ実習先でもある真美ヶ丘第2小学校には指導教員である奥田先生のゼミ生数人が担当してくれていて、彼らにとっては直に小学生と触れる学びの場にもなっています。デジタル機器やテレビゲームに慣れた子どもたちは覚えが早く、各種センサー付きロボットの組み立てとプログラミングも簡単にやり遂げます。



# マミポコ・キッズプロジェクト

年 度：2009（平成 21）年 4 月～

連 携 先：畿央大学教育学部独自取組事業

指導教員名：現代教育学科教員

協力学生数：現代教育学科学部生約 50 名

目 的：畿央大学教育学部では毎月 2 回日曜日の午後から近隣の小学生約 50 名をキャンパスに招いている。子どもたち同士が仲間を作るコミュニケーションが図れるとともに、学生は活動を運営するスタッフとして、また将来小学校教諭をめざすと同時に子どもたちの前でゲーム遊びのルールの説明や話す力を身に付けています。大学が費用を全額負担する公認の課外活動ですので、保護者も安心して子どもたちを預けることができます。

成 果：大学の運動場や体育館を利用していろんなゲームをします。「名札づくり」や「なまえしゅりけん」といった名前を覚えることを目的とするもの、「伝言ジェスチャー」というグループ意識を高めるもの、名前を使って遊ぶ「となりのとなり」や「全身じゃんけん」、紙相撲を作って土俵をたたいて遊ぶ「とんとんずもう」、2つのボールを使って遊ぶ「あてっかけっこ」、「田の字鬼ごっこ」などの伝承遊びをみんな一緒にやることにより、子どもたちの緊張も解け、グループの仲間意識が高まります。子どもたちの活動を通して、子どもたちの成長はもちろん、教育学部生も将来小学校の教師になる自覚ができてきています。



# マミポコ親子ひろばプロジェクト

年 度：2009（平成 21）年 4 月～

連 携 先：畿央大学教育学部独自取組事業

指導教員名：現代教育学科教員

協力学生数：現代教育学科学部生約 20 名

目 的：小学校教員や幼稚園教諭・保育士をめざす畿央大学教育学部では 0 歳から幼稚園に入るまでの未就園児の親子を対象に、毎週月曜日午前 10 時から大学の和室を親・子・大学生のコミュニケーションの場「マミポコ親子ひろば」として活用しています。毎回テーマを替えて歌遊びや手遊び、体操遊び、絵本の読み聞かせなど、運営は学生が主体となって親子が触れ合いながら一緒にできる遊びを行なっています。小さなお子さまをお持ちのママ友の会話が弾み同じ子育ての悩みを語りあったりして地域の交流の場としても好評です。

成 果：未就園児の保育、遊びの指導を 1 年間通して行ないませんが、この時期の子どもの成長は早くめまぐるしいものがあります。この年齢の頃に他のお友達と一緒に長時間遊んで過ごす機会は少なく、集団のなかに溶け込んでいったり、親と異なる大人と遊ぶことは大きな成長につながります。また、学生にとっては子どもとの触れ合いとともに保護者と関わる経験は貴重で将来役に立ちます。年間を通して子どもたちをサポートする意義はとても大きいものです。おもちゃは年間予算で計画的に新しく買い足していますが、昔ながらの伝承遊びや身の回りにある物を使った遊びを考えやってみるのも面白く、子どもたちの自由な動きや想像力を養う契機になっています。





## 高齢者向け子育て支援プロジェクト

年 度：2007（平成 19）年 8 月～2010（平成 22）年 9 月

連 携 先：（社）奈良県シルバー人材センター協議会

指導教員名：教育学部教員を中心として全学横断的に約 14～15 名

協力学生数：教職員のみ

目 的：奈良県内各市町村にあるシルバー人材センターの上部組織である社団法人奈良県シルバー人材センター協議会からの受託事業として、リタイア後も経験豊富で元気な高齢者がいつまでも働けるように生涯教育にもつなげる「シルバー子育て講習会」を行なってきました。

幼稚園や保育所など公的免許や資格は付与されませんが補助的業務を行なう場合の理論と実務を学び直していただく機会をご提供しました。

畿央大学教育学部には教育に関連する幅広い領域の多数の研究者がおります。子ども教育政策の最新状況、子どものアレルギーや病気・疾病の応急措置対策、成長に伴う心身の発達の流れ、図画工作指導法、昔からの伝承遊び、絵本の読み聞かせ、音感教育など多彩なカリキュラムを組み、初心者やかつての教育現場で働いていた方々にもわかりやすい勉強をしていただきました。

成 果：大学の夏休みや冬休みを利用して連続した 5 日間もしくは 10 日間、午前 10 時～午後 4 時までの 6 時間の授業を受けることになります。奈良県内各地から応募参加する 65 歳以上のシルバーの方々は当初知らない方同士であってもすぐにうちとけ、最終日の受講証書授与式のあとは打ち上げ会や住所交換をするなど勉強仲間意識が高まります。地域の学童保育施設でのボランティア活動や孫の保育手伝いなどに役立つ知識と実践の学びとして好評です。



## 「えほん展なら」への協力支援プロジェクト

年 度：2008（平成 20）年 4 月～2012（平成 24）年 8 月

連 携 先：一般財団法人奈良県教職員互助組合、奈良新聞社

指導教員名：会場の無償提供

協力学生数：ボランティア学生 20～30 名

目 的：この催しは公益事業として広く県民を対象に、親と子のふれあいの場の提供と絵本を通じて豊かな成長を願うことを目的に毎年夏に開催されています。人々の一生に大きな影響を与えるすばらしい『絵本』のテーマパークを創出することにより、大人から子どもまですべての年齢層の人々が楽しめるふれあいの空間を提供しています。参加対象者は県内の保育所・幼稚園から小学校低学年までの母親と子どもたちです。さらに、地元住民にとっても街づくり気運の醸成、交流活動の進展など、社会的効果も大きいと考えます。

成 果：子ども向け絵本約 4,000 冊が会場いっぱいにならべられ夏休み期間中の金～日曜日までの 3 日間、県内各所から毎年 4,000～6,000 人の方々が来場されます。畿央大学にとってこのようなイベントに協力するのは、社会的意義がとても大きいことです。また、会場運営ボランティアとして教育学部の学生を中心に自発的参加者が多く、園児や児童および保護者と直にふれあう絶好の学びの機会になっています。受付・案内、絵本の読み聞かせ、お話劇場、紙芝居、手作り絵本などのコーナーで畿央生の笑顔の対応が来場者を和ませてくれています。

（平成 25 年度は大学校舎増設工事中のため畿央大学での開催はありませんでした。）



## 平城京天平祭への協力支援プロジェクト

年 度：2011（平成 23）年 5 月～

連 携 先：平城京天平祭実行委員会

指導教員名：教職員約 10 名

協力学生数：ボランティア学生約 40 名

目 的：2010 年「平城遷都 1300 年祭」、2011 年から名称が「平城京天平祭」に改められ、毎年ゴールデンウィークに（年度によって 4 月 29 日もしくは 5 月 3 日を初日として）奈良市平城宮跡で行なわれています。このイベントは平城遷都 1300 年祭で盛り上がった観光都市奈良を県内外にアピールし続けることにより奈良県の観光と経済振興を狙いとしています。その初日には大極殿前庭入り口傍で畿央大学茶道部（指導教員：健康栄養学科冬木啓子教授、部員 10 数名）が「さくら茶会」で御点前を披露、また、天平行列にも参加しています。

成 果：平城京天平祭「さくら茶会」は、厳格な茶と礼の作法を重んじる鍛錬を積んだ和装姿の茶道部学生たちの発表の場として最適であり、1 日約 200 人に提供しています。



同日に行なわれる時代衣装に身をつつんだ天平行列は当時の歴代天皇を先頭に、朱雀門から大極殿まで女官や武官を従えて行進するものです。2013 年 5 月は副学長が扮する淳仁天皇に教職員学生数十人が隊列を組んで練り歩きました。



京都で有名な時代祭は平安遷都から 1100 年目を記念して明治 28 年に当時の風俗衣装を纏って都大路を練り歩いて今日に至ることから、平城京天平祭実行委員会はこの天平行列がもっと盛大になることを祈願しており、畿央大学も趣旨に賛同して毎年参加しています。

# 学校インターンシップ

年 度：2007（平成 19）年 4 月～

連 携 先：畿央大学教育学部独自取組事業

指導教員名：現代教育学科教員および派遣先

協力学生数：現代教育学科学部生毎年約 100 名

目 的：小学校教員をめざす畿央大学教育学部では 2 回生から学校インターンシップとして近隣小学校を中心に派遣しています。1 年間を通しての長期となるため学生の居住地に近い学校も認めています。実習生の学生にとっては自分が将来進む教師への体験ですが、派遣先の担当の先生からいろいろな役割を与えられることも多く、それだけ教員の仕事をより具体的にイメージできます。3 回生からは教育実習というカリキュラムが組まれていますが、それとは違って学校インターンシップは先生と子どもの間に立つ「補助教員」として、授業はもちろん、運動会や社会見学など学校の 1 年間を通して参加できるため教育実習ではできないことも体験できます。

成 果：教育現場で活躍されている先輩教員の背中を見ながら自分の思い描く教師像を直に重ねることができる機会となります。3 回生からの教育実習に出るまでに教育学部のほとんどの学生は学校インターンシップを希望しています。2011 年度から単位取得できるようになりましたが、単位とは関わりなく貴重な経験ができることから教員をめざす学生のほとんどが参加しています。毎年 3 月下旬に派遣先の教育委員会の方々を大学に招いて「学校インターンシップ最終報告会」を開催しています。学生からは、特に子ども同士の喧嘩が起こった場合や蹴ってきたり物を投げってくる子どもを叱る難しさや大切さを実感できた、という体験談の報告もありました。



## 離島・へき地看護医療体験実習プロジェクト

年 度：2011（平成23）年4月～

連 携 先：三重県鳥羽市（神島、菅島）

指導教員名：看護医療学科教員多数

協力学生数：看護医療学科4回生離島・へき地看護医療体験実習履修生

目 的：看護医療学科4年次実習授業では、過疎、交通遠隔地、医療・福祉格差などの困難を抱えながら、豊かな自然・文化・コミュニティーの中で生活されている「離島・へき地」を実習地としています。鳥羽市神島の人口は約400人、菅島は約700人でそれぞれ1箇所の診療所で医師は1人しかいなく、実習生たちは現地で生活する人々と触れ合い、その生活を体験するなかから、「人と環境」、「人と暮らし」を見つめ、そこから地域における医療・保健・福祉の現状と可能性や看護職の役割を考えることを目的としています。

成 果：全島民の診察から治療、レントゲン撮影、現像まで1人しかいない医師がすべてをこなしています。看護師は診療所に来られた患者さんに家族のように話しかけ、てきぱきと医師の補助をしています。都市部では事務的に感じられる病院のやりとりが離島では家庭的で温かい雰囲気の中で行なわれています。問診でみなさんの生活習慣を聞き取り、骨密度や動脈硬化の測定をして、その結果を説明しています。島での生活は漁業や農業など島の産業と密接であり、生活背景を知り生活環境を実体験することで対象者をより理解できました。



# ウェルカムキャンパス

年 度：2003（平成 15）年～

連 携 先：畿央大学独自取組

指導教員名：全教職員

協力学生数：約 120 名

目 的：畿央大学では毎年 10 月下旬の土・日に開催される学園祭（学生自治会主催：畿央祭、来場者数は 2 日間で約 5,000 人）において、学生企画とは別に教職員企画として「ウェルカムキャンパス」を実施しています。健康科学部（理学療法学科、看護医療学科、健康栄養学科、人間環境デザイン学科）と教育学部（現代教育学科）の各学科企画と教職員企画の約 10 ブースのうち、「健康チェック」と「カロリーチェック」が特に好評です。

「あなたの健康をチェックします！」をキャッチフレーズに、①骨密度測定、②体組成の測定、③握力測定、④ 30 秒椅子から立ち上がりテスト、⑤ファンクショナルリーチテストを行い、その方の年齢の平均値と比較、判定します。

成 果：学園祭に来られる地域住民の方々のうち約 250 名に対して、5 つの項目を測定しています。毎年同じ項目ですので経年比較でき、楽しみにしている住民の方も多くいます。健康チェックの後は、すぐ近くの「健康カロリーチェック！」のブースで食育サットシステムを使って食事診断していただき、管理栄養士のたまご（学部生）から栄養に関する指導を受けます。



## 教職員のための夏の公開講座

年 度：2004（平成 16）年 8 月～

連 携 先：奈良県立教育研究所

指導教員名：毎年 8 月中旬～下旬に 2 講座程度

協力学生数：なし

目 的：奈良県が設置する教育に関する研究および教育関係教職員の研修を行う奈良県立教育研究所の依頼を受けて、奈良県内の 4 年制大学および短期大学が協力して 8 月から 9 月の学校の夏季休暇期間に実施する、県内の幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援教育諸学校の教職員向け自己啓発のための講座です。2009 年度から導入された教員免許更新制による講習ではなく、夏休み期間中に教職員自身が人生観や教育の幅を広げるための任意参加講座として多くの先生方が受講されています。

成 果：健康科学部および教育学部の各学科教員の中から 2 名程度を講師として実施していますが、小学校や中学校の教育現場での新しい教材となるようなテーマを提供したり、先生方の教え方を見直していただいたり自分の過去を振り返っていただく講座、あるいは学校とはまったく関係のない知識の涵養講座であったり千差万別です。しかし、受講された先生方の事後感想では「さっそく 2 学期からの授業に活かしたい」「自分を見直す良い機会になった」「他の学校の先生方と本音で話すことができ良かった」「自分自身が楽しい 2 時間だった。生徒に楽しい授業の作り方の参考になった」など好反応を示していただいています。



## 畿央大学公開講座

年 度：2003（平成 15）年～

連 携 先：畿央大学独自取組

指導教員名：毎年 1 回 1 月頃に 2 講座（2008 年度まで 2 日間 4 講座程度）

協力学生数：なし

目 的：2003 年開学時より実施している地域住民の方々向け「健康と教育」に関する啓発と生涯教育のための公開講座です。広陵町と香芝市にまたがる真美ヶ丘の住宅地は大阪の通勤圏として人口流入が続いたニュータウンで、高校 1 つ、中学校 2 つ、小学校 4 つ、幼稚園保育園 5 つ、広大な馬見丘陵公園はじめとする緑地が多く、教育・住環境ともにグレードの高い居住地区であり、住民の学びに対する意識が高い地域です。この住宅地の中にある畿央大学が開催する公開講座には実にたくさんの受講者が来られます。

成 果：以下、開催実績です。（講師肩書き省略）

	開催年月	講義テーマ	講師名
第 1 回	2003 年 10 月	これで良いのか、日本人の考える健康 美しく老いるためにストレス社会で生きる頭のよい住まい方骨粗しょう症って何？ 骨も鍛えられる	河瀬 雅夫* 中田 順造* 中城 進 中嶋 龍彦* 峯松 亮
第 2 回	2004 年 9-10 月	生活習慣病に対する運動療法バイオマスについて考えよう生活と色彩―“色彩の力”活用術―	田平 一行 柳 進* 佐藤 昌子*
第 3 回	2005 年 9-10 月	楽しく歩けるまちづくり 日々の運動は体のお薬です 家庭に忍び寄る食中毒の脅威	三井田 康記 庄本 康治 北田 善三
第 4 回	2006 年 9-10 月	食べ物と健康 これから期待できること 広陵町クリーン&歴史ウォーク 子どもとおとなの関係を考える	森 友彦* 萩原 義明* 上杉 孝實*
第 5 回	2007 年 11 月	肥満者にしのびよるメタボリックシンドロームの脅威 家庭でできる簡単な運動 ―科学的根拠に基づいた方法― 生涯学習のすすめ ―道楽のすすめ― 老後はどこで暮らすか	辻 啓介* 庄本 康治 柳父 立一* 齋藤 功子
第 6 回	2008 年 8 月	情報社会におけるコミュニケーション 子どもとの関わりから学ぶ―看護師の体験から― 腹の仕組みからより良い食生活を考える 親学のススメ―期待される人になるために―	西端 律子 弓場 紀子 山本 隆 山田 純二*
第 7 回	2008 年 12 月	肥満と高血圧の関係―ダイエットにつながる食事療法― 今、子どもは危険にさらされている 食べ物の安全性、安心感、信頼性 生活習慣病に対する運動療法	畑野 富美* 安井 義和 北田 善三 松本 大輔



第8回	2009年12月	血液と血管の若返り法 若さを保つためのトレーニング 今日その食事が若さの決め手です やってみよう！の志を生涯の友に	坂田 進 福本 貴彦 大藪 加代子* 岡本 啓子
第9回	2010年12月	人の身体は美しい～生理学の視点から見た調和の世界～ くじけないで～あなたの心にビタミン剤足りていますか～	金子 章道 伊藤 明子
第10回	2012年1月	美しい姿勢と動きで体も心も健康に 食べることからビューティフルライフへの道筋を探る	福本 貴彦 岩城 啓子
第11回	2013年1月	こころ up 作戦 上手なコミュニケーション	東山 明子 粕井 みづほ
第12回	2014年2月	「五感を育む味覚教育」～美味しく食べて健康に～ 「姿勢・呼吸・運動機能からみた誤嚥性肺炎の予防」	浅野 恭代 高取 克彦

※「\*」を付している教員は、2014年2月現在在籍されていません。



## 講師派遣・講演会

年 度：2003（平成 15）年 4 月～

連 携 先：畿央大学独自取組

指導教員名：全教職員

協力学生数：なし

目 的：地域の課題解決のために、健康と教育の分野に強い畿央大学の教員に寄せられる外部からの期待は大きく、奈良県はじめ近隣市町村の公的機関等から学識経験者として諮問委員、顧問、アドバイザー等への就任要請が多くなっています。また、小中高等学校、家庭学級、教育委員会、病院、企業などからの講師派遣・講演会の依頼は、年間約 350～450 件で推移しています。

高等教育機関としての大学がその知財を大学の中で学生への講義や自己の研究だけで持て余すのではなく、広く一般の方々に開放することが社会的責務でもあります。畿央大学ではホームページで全教員の名前・研究テーマ・講義例を掲載するとともに、講師派遣申込書と依頼書様式を貼付しています。

成 果：畿央大学各学科教員に対する外部団体等からの講師依頼は、とても高い件数推移を見せています。年間 350～450 件の中身としては、高校から大学進路相談のためのものが年間約 80～100 件、これを除く一般向け 270～350 件となっており、近畿一円から四国、北陸、関東など広範囲に依頼先が分布しています。



### <講師派遣依頼の手順>

- ① 畿央大学 HP のトップページ左ナビ「地域連携センター」バナー⇒講師派遣へ
- ② 講義可能なテーマ一覧の閲覧
- ③ 出張講義（社会人対象）の下部・「講師派遣申込書」・「講師派遣依頼書」の出力
- ④ 講演依頼の趣旨・テーマ・ご要望をお聞きして、ご希望の先生のスケジュールを調整のうえご連絡いたします。そのうえで正式な依頼書をご提出ください。

HP 掲載テーマ一覧は一例です。ご希望のテーマ・謝金・交通費等についてはご相談ください。

企画部 講師派遣担当者への問い合わせ tel 0745-54-1601 メール kikaku@kio.ac.jp

# やまとフォーラム

年 度：2009（平成 21）年 8 月～

連 携 先：畿央大学独自取組

指導教員名：14 講座程度のうち、全 5 学科の各教員

協力学生数：会場整理、案内誘導などのボランティア学生約 40 名

目 的：畿央大学（冬木学園主催、本学は共催）の 5 学科教員に加え、地域の実社会で活躍されている方々を講師としてお招きして、毎年 8 月下旬の日曜日の午後に一挙 10 数講座の公開講座を開講しています。基調講演を含めてお一人 3 講座に参加できる無料講座です。

2008 年までは畿央大学公開講座を夏冬 2 回開催していましたが、夏の講座について参加される地域の方々をもっと楽しめて、また地域でキラリと輝いて活動されている方にスポットを当てみなさんに知っていただき、人生の感動を分かち合えたらとの思いから「やまとフォーラム」に切り替えました。

やまとフォーラムは畿央大学が連携している奈良県はじめ近隣市町に後援名義とともに講師派遣もお願いし、毎回充実した講師陣によって“教育・文化・健康”に関する講座の一大イベントになり、一日の全講座の受講者はのべ 1,500 人ほどで、実人数でも 600～700 人ほどに成長してきました。毎年多くの参加者をお迎えでき、畿央大学としてはまさに地域社会貢献活動が実ってきた証と、感謝しているところです。

成 果：以下、開催実績です。（敬称略）

※「\*」を付している教員は、現在在籍されていません。



	講義テーマ（外部講師、本学講師の講義番号順）	講師名	肩書（開催当時）
第 1 回 2009 年 8 月 30 日	基調対談 テーマ「育む」 地域が笑顔であふれたらいいですね 老舗企業の生きる道 邪馬台国時代の大和 サヌカイトを携えて旅した石器時代の“やまびと” 障がい児教育から特別支援教育へ 外食にかけた 30 年の歩み 高齢者の「食」とは シルクロード騎馬民族の活動的ファッション 邪馬台国はやはり大和にあったのか？  日本+アメリカ=パラオ 脳卒中の 2 度復帰は偶然か、必然だったのか ふれあいから学ぶ～人とのふれあいにより育つ力～ 卒研が紡ぐ地域と学生の「輪」 健康スイーツの開発プロジェクト 今日からできるラクラク禁煙法 絵からみえる子どもの心は、感動がいっぱい！ おくりびと・おくられびと まちづくりのすすめ 「同じ」って！？ 持久力を高めるには？ 食べ物の好き嫌いとお食育	古谷千佳子 森岡周 田口アキ子 吉田暁 石野博信 佐藤良二 矢倉克悦 布施正人 高橋浩治 庄健二 畑中俊烈 平井儀一 石井綾野 岡村光玉 弓場紀子 村田浩子 森友彦* 東山明子 永淵泰一郎 河野由美 三井田康記 安井義和 田平一行 山本隆	「海人」写真家（沖縄） 理学療法学科教授 より愛どころありがとう 梅乃宿酒造(株)社長 香芝市二上山博物館館長 香芝市教育委員会主査 奈良市立二名小学校校長 ラーメン「神座」社長 有料老人ホーム「エリシオン」代表 岡本株式会社 R&D 部 ふたかみ史遊会会長 広陵古文化会会長 元青年海外協力隊員 「失語症」・「声楽」発声研究所長 看護医療学科准教授 人間環境デザイン学科准教授 健康栄養学科教授 理学療法学科教授 現代教育学科講師 看護医療学科教授 人間環境デザイン学科教授 現代教育学科教授 理学療法学科教授 健康栄養学科教授



第2回  
2010年  
8月29日

基調講演  
 テーマ「喜びと感謝と敬いの心」  
 人類の遺産 アロマテラピー入門  
 農家さんってガンコ！地産地消費こだわり野菜  
 粟山古墳の発掘調査～木製品を中心として～  
 万葉の歌から北葛城を訪ねてみよう

化学マジック&葉っぱと森と炭素のゆくえ  
 人の心をギュッとつかむカラー活用術

あなたも取り組める地球温暖化防止対策  
 大和野菜について学ぶ  
 長屋王と葛城北部地域  
 水の力、光の力  
 姿勢を正して、健康なカラダをつくろう！  
 今こそ音楽！～注目される音楽の効果～  
 畿央大学発健康スイーツが全国デビュー  
 ひきこもる若者の理解と対応

倍巖良明

奈良「法徳寺」副住職

中屋和恵  
 杉本雅照  
 井上義光  
 曹咏梅

アロマハウス” 香気” 代表  
 農事組合法人丸広出荷組合代表  
 広陵町文化財保存センター副所長  
 奈良県立万葉文化館  
 万葉古代学研究所 主任研究員

新井博子  
 林由恵

森林インストラクター  
 color studio A+STYLE  
 (エースタイル) 代表

高澤正雄  
 三浦雅之  
 山下隆次  
 佐藤昌子\*  
 瓜谷大輔  
 坂本暁美\*  
 森友彦\*  
 目良宣子\*

奈良芸術短期大学准教授  
 株式会社「粟」代表取締役社長  
 香芝市教育委員会生涯学習課主査  
 人間環境デザイン学科教授  
 理学療法学科助教  
 現代教育学科准教授  
 健康栄養学科教授  
 看護医療学科助教



第3回  
2011年  
8月28日

基調ライブ講演  
 コンサート&トーク「ともに生きる」  
 奈良県がん対策推進計画と当院のがん医療  
 3つの力（パワー）で奈良を元気に！  
 スイスの生活で感じた、「住民主体」  
 虫食いの葉っぱ1枚からの雑感よもやま話  
 若返り！！体内年齢とたたかう！  
 食を通じての感動～アレルギーの人も食べられる  
 西洋料理～  
 最近の明日香の考古学

香芝北中ブランドの構築（天ぶら油の回収）  
 転倒、骨折を予防するための「いろは」  
 おいしく食べて健康に長生きするには  
 大丈夫！そんなあなたもやがて花粉症・・・  
 美をつくる～キャンペラ奈良平和公園モニュメント  
 「徳」 TOKU ～

やなせなな

歌う尼さん  
 浄土真宗本願寺派・教恩寺住職

吉川高志  
 鉄田憲男  
 石原田明美  
 新井博子  
 長谷真由美  
 田邊正司



国保中央病院院長  
 奈良まほろばソムリエ友の会事務局長  
 有限会社 English Hands 代表  
 森林インストラクター  
 「カフェ薬膳 スタジオ美身」主宰  
 社）全日本司厨士協会関西本部理事  
 奈良県本部理事

河上邦彦

現神戸山手大学教授、  
 広陵町文化財保存センター所長

増田稲喜  
 岡田洋平  
 山本隆  
 山中純瑚\*  
 加藤信喜

香芝市青少年センター所長  
 理学療法学科助教  
 健康栄養学科教授  
 看護医療学科教授  
 人間環境デザイン学科准教授

<p>第4回 2012年 8月26日</p> 	<p>基調講演 テーマ「元気が出る旅行話」 ～ほんまもんのサービスはこれや!!～ 1200年の技 庖丁式 お題『黄龍の椿』</p> <p>ストレスと上手につきあおう! ～ストレスと健康の関係について～ 竹取物語と讃岐神社 「きっかけ」は「であい」 置き薬は日本の文化! 「靴下の町 広陵」の歴史と展望 成功者の事例から学ぶ～高血圧克服の秘訣～ 家庭教育の「今・昔」 運動はなぜ続かないのか? 人と関わるコミュニケーション 食のリスクを考える 東日本大震災の被災地・気仙沼での活動報告 達人の何を学ぶか?～闘志、投資、見通し～</p>	<p>平田進也 日本旅行カリスマ添乗員</p> <p>竹内智志 古流庖丁道庖献 高円御流高円会会長、奈良県調理師連合会奈良支部長 香芝市総合福祉センター</p> <p>高岡恵津子 精神保健福祉士</p> <p>平井儀一 広陵古文化会会長 新井博子 森林インストラクター 浅見潤 三光丸クスリ資料館館長 野村佳照 広陵町靴下 100年事業委員長 窪田あずさ 香芝市保健センター 保健師 田中久善 元天理市立南中学校校長 高取克彦 理学療法学科准教授 神戸美輪子 看護医療学科教授 北田善三 健康栄養学科教授 古川恵美 現代教育学科准教授 金敷大之 人間環境デザイン学科准教授</p>
<p>第5回 2013年 9月1日</p> 	<p>基調講演 テーマ「葛城の万葉歌と大伯皇女の歌」 ラジオ体操で健康! 元気! 美味しい野菜の新品種をつくりたい! 先ず思うこと、すべてはここから始まる 日本人の美しい心が日本を救う 醤油 再発見 お遍路の社会学 入江泰吉先生に学んだ事 ～表現芸術としての写真～ あなたにも忍び寄る...がん! 健康長寿をめざして 人にやさしい生活環境づくり 孤独死のことについて考えます スウェーデンの子育て支援と保育 筋トレ? いいえ、骨トレ!</p>	<p>坂本信幸 奈良女子大学名誉教授 高岡市万葉歴史館館長</p> <p>重信茜 香芝市役所地域包括支援センター保健師 西本登志 奈良県農業総合センター総括研究員 上山好庸 あすか劇団「時空」主宰 石井正信 田原本町観光協会事務局長 片上裕之 片上醤油 代表者 田尾秀寛 東寺真言宗権少僧正 近藤芳嗣 県民招待作家、水門会員、 近藤豆腐店代表取締役</p> <p>米田安佐子 香芝市保健センター 保健師 北田善三 健康栄養学科教授 中山順 人間環境デザイン学科准教授 堀江尚子 看護医療学科准教授 大城愛子 現代教育学科講師 峯松亮 理学療法学科教授</p>

## FEP ホール企画

年 度：2009（平成 21）年 12 月～

連 携 先：畿央大学独自取組

指導教員名：全学

協力学生数：会場整理、案内誘導などのボランティア学生約 20 名

目 的：畿央大学（冬木学園主催、FEP：冬木学園教育推進プロジェクトの略）の冬木記念ホールを住民の方々に開放して多彩なイベントを無料開催するという地域社会貢献活動です。冬木学園主催の「やまとフォーラム」と同じく 2009 年より原則春と冬の年 2 回実施しています。やまとフォーラムや公開講座は比較的年配の方向けですので、FEP ホール企画は、春はファミリー向け、冬は中高大の学生向けイベントを念頭に置いて企画しています。

冬木記念ホール定員が約 500 名で毎回定員を上回る申込みが殺到しており地元のみなさまに好評のイベントになっています。

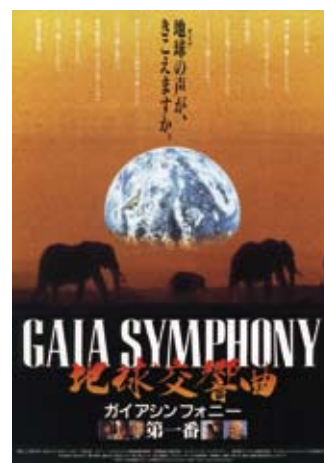
成 果：以下、開催実績です。

【第 1 回 FEP ホール企画：2009（平成 21）年 12 月 18 日（金）】

### ガイアシンフォニー「地球交響曲 第一番」映画上映会

地球交響曲とは、イギリスの生物物理学者ジェームズ・ラブロック博士の唱えるガイア理論、「地球はそれ自体がひとつの生命体である」という考え方にに基づき、龍村仁監督によって制作されたオムニバスのドキュメンタリー映画シリーズで、現在、第八章まで作られています。

「第一番」は、21 世紀の到来を前にして、母なる星・地球の未来にとって、極めて示唆的で重要なメッセージを持っている世界の 6 人の人々をドキュメントしたオムニバス映画で、来場者のみなさんに大きな感動を与えました。



【第 2 回 FEP ホール企画：2010（平成 22）年 6 月 22 日（土）】

### 桂文我「おやこ寄席」公演

落語は人生経験を積んだ大人が「そうそう、世の中にそんなことがある」と共感しながら想像（創造）して笑う芸能です。子どもでも興味を引く場面をふくらませて笑ってもらおうと、桂文我さんは「おやこ寄席」を全国で開催されており、小学生以上の児童・ファミリーを対象に落語の公演会を開催しました。

ふだんは落語に馴染みのうすい地域の方々、とくに子どもさんに「落語って、こんなに面白い！」と思ってもらえたことが何よりでした。



【第3回 FEP ホール企画：2010（平成22）年12月11日（土）】

### 宇宙、人間、ニュートリノ ～ノーベル賞学者、小柴先生が語る人生論～

物理学者たちが懸命に求めてきた物質の最小単位・・・。質量が非常に小さく、透過性が高いために、その存在を確かめることが困難をきわめた「ニュートリノ」。そこで小柴昌俊先生は、巨大な装置「カミオカンデ」を作り上げ、そして「ニュートリノ」を世界で初めて観測するという輝かしい業績を上げられました。しかし一方、こどものころはやんちゃ坊主、高校時代「小柴は物理が出来ない」という言葉に一念発起して東大理学部に進学、しかし成績はビリで卒業・・・。「やればできる」をモットーに生きてこられた小柴先生の人生論、そして科学の面白さについて語っていただきました。



【第4回 FEP ホール企画：2011（平成23）年6月26日（日）】

### ♪オーケストラがやってくる♪ 橿原交響楽団～ファミリーコンサート in 畿央大学～



橿原交響楽団は地元橿原市で結成されている歴史ある楽団で奈良県内各地で演奏会を開催しています。みんなが知っている思い出の曲を生々の迫力ある音響でオーケストラが心に刻んでくれました。

途中、弦楽器の紹介コーナーでは、花形楽器のバイオリン、少し大きなビオラ、さらに大きく足の間に挟んで弾くチェロ、もっともっと大きなコントラバス、そしてきれいな音色のハープが奏者とともに紹介されました。指揮者体験コーナーでは、元気に手を上げた小学生の女の子、男の子、保護者男性の3人が選ばれ、満員の会場の壇上で指揮棒を振る貴重な体験をしていただきました。



【第5回 FEP ホール企画：2011（平成23）年12月17日（土）】

アテネ・北京オリンピック全日本女子バレーボールチーム監督

柳本晶一氏講演会「人生、負け勝ち」

柳本元監督は、女子の機微に触れた指導方法を体得、メンバーを信頼しても信用せず大胆な選手起用をしたり、オリンピックでは150%の実力発揮が必要で元々選抜で勝ち残った選手の能力を120%まで引き上げ、あとの30%は人間力涵養だと持論を展開。4年に1度しかないオリンピックでは勝つチームづくりが難しいこと、選手の成長の瞬間を見逃さずその時に褒めて指導すること、4年後の目標をしっかり立て夢が現実のものとなるよう情熱を燃やすこと、負けを教訓に勝ちを呼び込む信念を持つことなど、全日本女子バレーボール復活の秘話を熱く語っていただきました。



【第6回 FEP ホール企画：2012（平成24）年6月16日（土）】

おやこでみて・感動！あすかの世界 あすか劇団「時空」公演



あすか劇団「時空」は1998年に明日香村の地元で結成され奈良県内を中心に公演活動を展開する、舞台装置・衣装・脚本などすべて手作りの創作劇団です。

当日のプログラムの一つ目は、7～8世紀頃日本最古の和歌集である万葉集を編纂した大伴家持が歌を詠んだ情景をコミカルに描く「万葉ラブソディ」で、寸劇のあとに家持が解説を加え、当時の詠み人のこころを伝える趣向です。二つ目は、蘇我入鹿の横暴な政治に幕を下ろすという日本の国の改革は飛鳥から始まったといわれる「大化改新」。公演後は冬木記念ホール前で劇団員の方と子どもたちと記念撮影があり、みんな満足していただきました。





【第7回 FEP ホール企画：2013（平成 25）年7月27日（土）】  
ソン・ソルナム フルート演奏会

韓国のフルート演奏の第一人者であり、「イ・サン」、「トンイ」、「ホ・ジュン」などの韓流ドラマのテーマ曲や挿入歌を演奏されたソン・ソルナムさんをお招きしてフルート演奏会を開催しました。この日参加していただいた地域の方々は約 500 名で、会場ホール定員 500 名を越す希望者があり7月初旬には満員御礼となりました。ソンさんは、アメリカのカーネギーホール、リンカーンセンターでの演奏を経験、2011 年3月の東日本大震災以降、東北の被災地の避難場所や仮設住宅で70回以上のボランティアコンサートを開催されており、また、2012年日本国際飢餓対策機構の親善大使になられ精力的な演奏活動を展開されています。



「冬のソナタ」の韓流ドラマ人気が出てから丁度10年経ちますがその勢いは今なお続いており、とくに年配女性のファンが公演後も握手とサイン会に溢れていました。



畿央大学のビッグイベントである「やまとフォーラム」と、このFEPホール企画では受付・会場整理・誘導などの学生ボランティアの役割は大きく、またご来場者からも喜んでいただいています。



【自治体等との包括連携協力】



(協定書締結日順)

- 奈良市
- 香芝市
- 大和高田市
- 奈良県立野外活動センター
- 御所市
- 奈良県中央卸売市場
- 橿原市
- 広陵町
- 斑鳩町

健康科学分野および教育分野を中心に、まちづくり、都市計画、健康づくり、子育て支援や教育などの充実発展に寄与することを目的に、協定書を締結して協力体制を築いています。

【教育委員会との連携協力】

- 奈良市教育委員会
- 京都市教育委員会
- 広陵町教育委員会
- 香芝市教育委員会
- 宇陀市教育委員会
- 安堵町教育委員会
- 大和高田市教育委員会
- 上牧町教育委員会
- 田原本町教育委員会
- 大阪市教育委員会
- 斑鳩町教育委員会
- 八尾市教育委員会

教職員の資質向上、教員養成の充実を図るとともに、教育上の諸課題に対応することを目的に、協定書を締結して協力体制を築いています。

# 畿央大学 研究者一覧

畿央大学ホームページ内「教員紹介データベース」より、掲載研究テーマの3つ程度を抜粋。詳しくはHPをご覧ください。

学 科	氏 名	専門分野	研究テーマ
健康科学部 教授 学部長	金子 章道	神経生理学、特に視覚を中心とした感覚生理学	網膜における光受容と視覚情報処理、網膜の神経回路
理学療法学科 教授 学科長	庄本 康治	人間医工学（リハビリテーション科学・福祉工学）、健康・スポーツ科学（応用健康科学）	1. 外科手術後 TENS の鎮痛効果と呼吸機能に与える影響について 2. バランス障害、半側空間無視に対する galvanic vestibular stimulation の影響について 3. 脳卒中後の運動麻痺に対する Peripheral nerve stimulation の影響について
理学療法学科 教授 学科主任	田平 一行	循環呼吸系理学療法 呼吸リハビリテーション	1. 運動負荷時の骨格筋酸素動態および呼吸困難感の感度に関する研究 2. 胸腹部術後の肺機能、喀痰排出能力に関する研究
理学療法学科 教授	今北 英高	リハビリテーション科学 神経筋生理学 基礎理学療法学	現在、いくつかの疾患モデルを作成し、それらの病態変化、運動や物理的刺激に対する神経、骨格筋、脳幹などの変化について調査。 @脊髄損傷モデル・・・特に呼吸に影響を与える頸髄損傷モデル、半切モデルを作成し、呼吸機能の変化、SpO2 の変化、横隔膜筋活動の状態などを調査。
理学療法学科 教授	東山 明子	スポーツ心理学 健康心理学	1. 注意集中 2. メンタルトレーニング 3. 禁煙支援
理学療法学科 教授	峯松 亮	リハビリテーション医・科学、基礎理学療法学、生活支援系理学療法学、骨粗鬆症	骨粗鬆症における基礎的（様々な骨量減少誘因における骨微細構造の変化とその予防法）、臨床的研究（各世代における骨量調査、生活習慣（運動・栄養等）と骨粗鬆症の関連とその予防）
理学療法学科 教授	森岡 周	神経リハビリテーション学 認知行動神経科学 身体運動制御学	中枢神経障害に対するニューロリハビリテーションに関する研究 1. 上肢到達・操作運動の機能回復に関連する基礎・臨床研究：一次運動野における NewM1（4p、尾側）、OldM1（4a、吻側）の機能的差異に基づいたニューロリハビリテーションの開発研究 および脳機能イメージング手法を用いたニューロフィードバック治療の開発 2. 姿勢・歩行の機能回復に関連する基礎・臨床研究：姿勢バランスに効果的に作用する弁別知覚学習課題の開発 および運動の内部モデル形成に基づく予期的・予測的な姿勢制御および歩行制御 3. 身体知覚および空間認知の機能回復に関連する基礎・臨床研究：身体帰属感、運動主体感、運動イメージ形成に関連する研究、脳血管障害や脊髄損傷者の身体イメージの病態分析、心的回転（mental rotation）時の大脳皮質活動の時系列分析
理学療法学科 准教授	高取 克彦	応用健康科学 健康増進予防医学	1. 地域高齢者の健康増進・転倒予防を目的とした介入に関する研究 2. 施設内転倒リスクアセスメントツールの有用性に関する研究 3. リハビリテーション病院における院内転倒予防に関する研究

学 科	氏 名	専門分野	研究テーマ
理学療法学科 准教授	冷水 誠	リハビリテーション科学 健康科学 認知科学	1. 運動学習を効果的にする介入方法に関する研究 2. 二重課題法を用いたバランス訓練および動作訓練効果に関する研究 3. 上記における脳イメージング装置を用いた研究
理学療法学科 准教授	福本 貴彦	運動系理学療法学 義肢装具学 スポーツ医学	動作分析 1. 義足歩行分析 2. ACL 損傷者のジャンプ動作・歩行分析・外乱動揺に対する反応 装具とトレーニングの開発 1. 変形性膝関節症者に対する装具とトレーニング 2. スポーツ外傷・障害予防のための装具とトレーニング
理学療法学科 准教授	松尾 篤	リハビリテーション科学 認知科学 精神神経科学	1. 神経リハビリテーションに関する基礎的研究と臨床研究 2. コミュニケーション、自己意識に関連した社会神経科学研究
理学療法学科 助教	瓜谷 大輔	運動器系理学療法学 応用健康科学 公衆衛生学	1. 運動器障害に対する理学療法 マニュアルセラピー、体表解剖学（触診） 2. 顎口腔系に対する理学療法 顎関節症に対する理学療法、姿勢と顎運動・咬合咬合と身体機能、咬合と栄養状態 3. 足趾握力に関する研究
理学療法学科 助教	岡田 洋平	応用健康科学 リハビリテーション科学 神経筋疾患の理学療法	1. パーキンソン病患者の姿勢異常に対する物理療法介入 2. すくみ足を呈するパーキンソン病患者の Initial swing side variability と Lateral preference の関連 3. 健常者における Initial swing side 決定のメカニズム
理学療法学科 助教	前岡 浩	リハビリテーション科学 応用健康科学	1. 痛みの特に情動的要素におけるメカニズム 2. 社会的痛み 3. 痛みの共感
理学療法学科 助教	松本 大輔	リハビリテーション科学 健康・スポーツ科学 応用健康科学	1. メタボリックシンドローム・生活習慣病の予防、健康増進 2. インドネシアなどアジアを中心とした海外と日本の健康比較 3. AGES prproject、介護予防関連、地域間格差
理学療法学科 助手	西井 康恵	生理学	特定高齢者に対する体力向上プログラムの実施が身体機能に与える影響
看護医療学科 教授 学科長	伊藤 明子	看護学	1. 老年期への過渡期にある成人の発達 2. 自分を語ることの意味（ナラティブアプローチ） 3. 看護学実習における知識と実践の統合過程に関する研究
看護医療学科 教授 学科主任	坂田 進	遺伝子治療学 心臓生理学 血液生理学 運動生理学 環境生理学	1. 心臓生理学的研究：ラット病態モデル不全心の力学的エネルギー学的心機能解析、不全心の遺伝子治療の基礎研究、心筋肥大の発症機序について 2. 血液生理学的研究：低酸素刺激に対するエリスロポエチン産生反応機構について、血液幹細胞の分化誘導機構について 3. 運動生理学的研究—不全心ラットの運動能力の改善について
看護医療学科 教授	神戸 美輪子	看護学、急性期看護学、看護教育学	1. 潜在看護師の復職教育に関する研究 2. 看護教育に関する研究

学 科	氏 名	専門分野	研究テーマ
看護医療学科 教授	河野 由美	在宅看護、社会心理学、宗教心理学、死生学、社会調査、ヒューマンケア	1. 死生観など死に関連した態度と宗教観、Spiritualityに関する心理学的研究 2. 在宅ターミナルケア（看取り）と高齢者のターミナルケア 3. ヒューマンケア、看護教育、Death Educationに関する心理学的研究
看護医療学科 教授	中田 智子	地域看護 公衆衛生看護	1. 高齢者の住まい 2. 子育て支援 3. 子どもの虐待
看護医療学科 教授	福森 貢	プログラミング 統計学（多変量解析、ノンパラメトリック、など）	統計ソフトの開発と統計理論の探求
看護医療学科 教授	船瀬 孝子	老年看護	1. 高齢者のQOLを支える看護に関する研究 2. 高齢者の生活機能を支える看護に関する研究
看護医療学科 准教授	稲佐 郁恵	助産学 母性看護学 看護学	1. 母親役割獲得のための内的ワーキングモデル修復に効果的な看護介入モデルの開発 2. 母一子・家庭一子・地域一子の関係性において虐待予防・防止に関する研究
看護医療学科 准教授	乾 富士男	看護学 保健学	職場環境やライフスタイルが心身に及ぼす影響を明らかにする
看護医療学科 准教授	林 有学	看護学 基礎看護学	1. 看護職のキャリアに関する研究 2. 看護学教育に関する研究
看護医療学科 准教授	堀内 美由紀	国際保健（保健政策／行政、母子保健、人口問題、人材育成、地域健康教育、マラリア対策）、国際助産、看護、災害看護	1. 健康行動とソーシャルキャピタル 2. 健康行動に影響を及ぼす要因に注目した健康教育に関する検討 3. 途上国における保健政策と人材育成に対する技術協力事業とその評価 4. 社会的弱者に対する災害対策システムの検討
看護医療学科 准教授	堀江 尚子	看護学、グループダイナミクス、社会心理学、アクションリサーチ、単身高齢者支援	1. 単身高齢者の孤独死 2. 単身高齢者の在宅生活支援 3. ホームレスの人々をめぐる支援関係
看護医療学科 准教授	松本 泉美	看護学（公衆衛生看護）	禁煙支援、喫煙対策、公衆衛生看護教育、保健指導技術、介護予防
看護医療学科 准教授	弓場 紀子	看護学、小児看護学	1. 子どもに関わる看護師、保育士の基礎教育内容および教育方法に関する研究 2. 小児肥満への看護介入
看護医療学科 講師	小林 智子	看護学	1. 看護教育におけるジェンダー問題について 2. 看護技術教育に関する研究
看護医療学科 講師	須藤 聖子	看護学、基礎看護学	1. 看護学教育の教育効果に関する研究 2. 看護技術教育に関する研究
看護医療学科 講師	對中 百合	看護学	1. 看護教育 2. 慢性期看護
看護医療学科 講師	寺田 美和子	看護学	1. 成人期から老年期にいる方のQoLに関する研究 2. 看護基礎教育に関する研究
看護医療学科 講師	中居 由美子	看護学、母性看護学	1. 思春期の羞恥心 2. 青年期の性教育
看護医療学科 講師	南部 登志江	老年看護学	1. 認知症高齢者のターミナルケア 2. 高齢者におけるタクティール・タッチ 3. 世代間交流の現状と課題
看護医療学科 講師	林田 麗	看護学	1. キャリア形成 2. 家族看護

学 科	氏 名	専門分野	研究テーマ
看護医療学科 講師	廣金 和枝	地域保健、学校保健、 母子保健	思春期女子の摂食障害早期発見プロトコルの開発
看護医療学科 講師	美甘 祥子	看護学、助産学、 母性看護学	1. 出生前診断 2. 妊娠期の食習慣
看護医療学科 講師	鷲尾 弘枝	母性看護学	1. 看護学生の母性意識の変化 2. 看護学生の安全な沐浴実施に必要な要因と教員の役割 3. 胎内記憶 4. 妊産婦のストレスについて
看護医療学科特任助教	高畑 みどり	小児看護学	乳児院における看護師の職務満足度
看護医療学科 助手	小川 範子	看護学	在宅看取りを経験した家族の死生観の変化
看護医療学科 助手	笠谷 笑子	看護学	
看護医療学科 助手	菊本 由里	看護学	1. 看護技術でのケア介入による効果について 2. 認知症患者への支援について
看護医療学科 助手	中谷 香江	看護学	
看護医療学科 助手	森嶋 道子	看護学	看護師のキャリア形成における役割認識と時間的展望の関連性
健康栄養学科 教授 学科長	北田 善三	公衆衛生学 食品衛生学	1. 食品添加物や食品成分について、クロマトグラフィを用いた汎用性のある分析法を開発し、食品中の含有実態の調査 2. 奈良県の特産品である吉野葛について、澱粉や製造時の廃棄物を対象とした研究
健康栄養学科 教授 学科主任	栢野 新市	有機化学 食品生化学	食品中の機能性成分の化学構造解析および機能性の評価に関する研究
健康栄養学科 教授	浅野 恭代	栄養教育、調理学、ライフ ステージ栄養学	1. 在宅高齢者の食事支援 2. 食習慣と咬合性との関連 3. 「パックフッキング」の調理性
健康栄養学科 教授	岩城 啓子	食べ物と健康（食品学、調 理科学）	1. 食品のおいしさと物性 2. おいしく、健康増進にも貢献できる米飯の調理、老化抑制法 3. グルテンフリー米粉パンの製法の検討
健康栄養学科 教授	岡崎 眞	栄養生態学、公衆栄養学、 管理栄養士教育	食事摂取基準の利用 栄養評価法 食・栄養調査理論 管理栄養士に対する統計学教育 食情報システムの利用 管理栄養士養成における教育法
健康栄養学科 教授	金内 雅夫	病態栄養学、糖尿病学、腎 臓病学、老年医学	1. 糖尿病対策とメタボリックシンドローム予防研究 2. 虚弱高齢者の食栄養調査 3. 継続的栄養指導の有用性と阻害因子
健康栄養学科 教授	高野 康夫	解剖学 呼吸器細胞学	1. 環境汚染物質（PM）誘導による呼吸器障害の細胞生物学的解析 2. 呼吸機能に及ぼすフィトンチッドの生理活性物質としての検討 3. 抗酸化能を有する機能性食品成分の解析（予定）
健康栄養学科 教授	冬木 啓子	農業経済学	1. 中央卸売市場創設による地場流通機構の再編と地場産地に生じた変化との関連 2. 市場外流通の変遷と地場産地の取り組み 3. 地場産廃棄果実バイオエタノール開発の有効性
健康栄養学科 教授	山本 隆	生理学、神経科学、味覚生 理学、食行動の脳科学	1. 味覚嫌悪学習、味覚嗜好学習の実験パラダイムを応用した味や香りの学習、記憶の基本的な脳の仕組み 2. 脳機能イメージング法を応用したヒトの脳機能 3. 食物摂取と脳内および体内の生理活性物質の動態

学 科	氏 名	専門分野	研究テーマ
健康栄養学科 准教授	上地 加容子	給食経営管理論、公衆栄養学、小児栄養学	1. 味覚と食行動に関する研究 2. 若年者の食事摂取状況、身体活動状況の近年における変化 3. 食物栄養専攻卒業生の実態調査から栄養士教育を考える
健康栄養学科 准教授	永澤 健	運動生理学 スポーツ栄養学	1. 筋代謝・循環に関する運動生理学的研究と健康づくり運動処方への応用 2. 運動時のエネルギー代謝に影響を与える食品成分とその生理作用の解明 3. スポーツ選手の栄養管理に関する研究
健康栄養学科 講師	喜多 雅子	栄養教育	
健康栄養学科 講師	林 京子	臨床栄養	生活習慣病の中でも主に糖尿病に関する、糖尿病患者への栄養教育、食事療法と患者心理について
健康栄養学科 助教	松村 羊子	栄養学 食品化学	クロストークシステムを介する乳酸菌の摂食調節機構の解明
健康栄養学科特任助教	柴田 満	調理学	抗酸菌に特徴的な糖脂質分子の生化学的・免疫学的解析と宿主応答について
健康栄養学科 助手	金 一玲	実験実習補助	食品の機能性、調理特性について
健康栄養学科 助手	小西 佳奈	実験実習補助	
健康栄養学科 助手	富岡 華代	実験実習補助	
健康栄養学科 助手	峰松 祐至	実験実習補助	食べ物の嗜好性と脳活動の変化
健康栄養学科 助手	餅田 尚子	実験実習補助	
人間環境デザイン学科 教授 学科長	三井田 康記	建築設計、地域計画、 まちづくり計画	1. 伝統文化を大切にしたまちづくり 2. ユニバーサルデザインの住まいづくり
人間環境デザイン学科 教授 学科主任	齋藤 功子	住居学・高齢者と住環境・ 福祉のまちづくり	1. 高齢者を支える生活支援に関する研究 2. 少子化をめぐる環境整備に関する研究
人間環境デザイン学科 教授	藤井 豊史	建築設計 住宅設計	住宅における建築の物理的性能と空間デザインの両立のための実践的研究
人間環境デザイン学科 准教授	東 実千代	住環境学	1. 室内空気環境に関する研究 2. 住環境の快適性に関する研究
人間環境デザイン学科 准教授	加藤 信喜	インテリアデザイン、住宅 設計、家具デザイン、環境 デザイン	インテリアデザインの実践的研究 1. 茶室から近代建築のインテリアデザインにおける変遷 2. 日本人の身体性とインテリア 3. 生活とインテリアの分析と考察
人間環境デザイン学科 准教授	金敷 大之	認知心理学 実験心理学	1. メタ記憶：みずからがどの程度学習したかの予測、予測に基づいた学習行動、およびその帰結としての課題成績との関係を研究 2. 行為の実行制御：目標志向の行動・運動において、プランやゴールがどのように設定され、実行するためのプログラムがどのようにインストールされ、実行過程におけるコントロールがどのように行われているかを明らかにするための研究
人間環境デザイン学科 准教授	中山 順	ユニバーサルデザイン、イン テリアデザイン、プロダ クトデザイン	1. ユニバーサルデザイン方法論 2. 認知症高齢者に配慮した環境デザイン
人間環境デザイン学科 准教授	村田 浩子	生活科学 被服学	1. 保育内容「環境」 自然環境の素晴らしさを伝えるために、自然物を使ったものづくりを保育に取り入れる方法及び、教材の研究 2. 地域の産業を活かしたものの作りの研究

学 科	氏 名	専門分野	研究テーマ
人間環境デザイン学科 講師	李 沅貞	色彩学 環境デザイン	1. 就職活動時の証明写真に関する研究 2. 味覚表現における色彩に関する研究 3. 絹糸の光反射特性に関する研究 – 生糸への撚り掛けの影響 –
人間環境デザイン学科 特任助教	奥村 亜希	空間デザイン	建築デザインの各研究テーマに沿った教育的研究
人間環境デザイン学科 特任助教	長井 典子	都市史、まちづくり	フランス・パリにおける都市境界域の空間構造に関する研究
教育学部 教授 学部長	白石 裕	教育行政学 教育財政学 教育政策論	アメリカ学校財政制度訴訟の研究、日米教育法制の比較研究、教育政策の策定・実施に関する研究、教育政策思想に関する研究
現代教育学科 教授 学科長	安井 義和	幾何学 学校安全	1. 位相空間の被覆性 2. 学校安全の実証的研究
現代教育学科 教授	岡本 啓子	養護教育 学校看護 学校保健	1. 養護教諭のコーディネーション能力についての研究 2. 養護教諭のフィジカルアセスメントに関する研究 3. 学校における医療的ケアに関する研究
現代教育学科 教授	粕井 みづほ	保育、幼児教育、心理学（発達心理学、家族心理学）	1. 心理プログラムの実践・開発による子育て支援のフィールドワーク研究 2. 夫婦関係についてのコミュニケーション面からの研究 3. コミュニケーションについての心理学的アプローチ研究
現代教育学科 教授	島 恒生	道德教育 特別活動	1. 道德授業の工夫、改善 2. 諸外国の道德教育と我が国の道德教育の比較研究
現代教育学科 教授	中城 進	教育心理学	日常生活における人間関係の中においてあちらこちらに散在する「権力」という現象を研究
現代教育学科 教授	西尾 正寛	美術教育	1. 地域の特徴を生かした図工科教材・カリキュラムの開発 2. 教員養成大学における学生の造形表現教育にかかわる授業力・保育力の育成 3. 教員養成大学における教育実習にむけた予備教育のあり方
現代教育学科 教授	西端 律子	教育工学 教育方法 教育の情報化 メディア教育	1. 情報技術やネットワークを利用した学習者コミュニティの形成 2. 教育の情報化（電子黒板、携帯電話などの利用） 3. 高等学校普通教科「情報」全般
現代教育学科 教授	三好 環	心理学（発達心理学、臨床発達心理学）	1. 子育て・子育てと支援 2. 子どもから見た乳幼児期の親子関係 3. 箱庭療法
現代教育学科 准教授	池田 雅代	音楽	1. ピアノ指導法 2. ピアノ伴奏法 3. Cécile Chaminade のピアノ作品について
現代教育学科 准教授	石川 裕之	比較教育学、韓国の教育、才能教育、高等教育、子育て支援	教育制度の日韓比較
現代教育学科 准教授	衛藤 晶子	音楽教育学	1. 小学校学級担任の音楽科授業力のあり方 2. 教員養成大学における音楽教育に関わる授業力の育成
現代教育学科 准教授	奥田 俊詞	理科教育	1. 小学校理科におけるものづくりの実践的研究 2. 理科教育における概念形成と指導法の関係性について



学 科	氏 名	専門分野	研究テーマ
現代教育学科 准教授	竹下 幸男	文学	20 世紀アメリカ小説
現代教育学科 准教授	辰巳 智則	運動心理学、臨床心理身体運動学、体育科教育学、バドミントン方法論	1. 体性疼痛を訴えるアスリートの障害と痛みの心理と支援 2. 傷害リハビリテーションの心理と支援 3. スポーツカウンセリング
現代教育学科 准教授	廣瀬 よし子	生活科教育 総合的学習教育 スクールマネジメント	1. 活動・体験の連続発展を図る生活科学習指導 2. 生活科による学校教育リノベーションの可能性について 3. 教育改革の先端となる生活科・総合的学習における教師の指導力の研究
現代教育学科 准教授	古川 恵美	学校看護 学校保健 特別支援教育(発達障害・家族支援)	1. 発達障害のある幼児児童生徒への養護教諭の関わりに関する研究 2. 発達障害のある子どもをもつ家族への支援に関する研究
現代教育学科 講師	生野 勝彦	バスケットボールコーチング 体育科教育学	1. バスケットボールにおける基本技術の習得についての研究 2. シュート率と腕の角度、スナップの使い方 3. 戦略と戦術
現代教育学科 講師	大城 愛子	教育行政学 幼児教育・保育制度 子育て支援 家族政策	1. 幼保一元カリキュラムの策定と実施に関する日瑞比較研究 2. 就学前教育・保育施設の設置主体多元化に関する日瑞比較研究 3. スウェーデンの NPO における運営資金調達に関する研究
現代教育学科 講師	富島 雅子	国語教育	PISA 型読解力を育てる指導法
現代教育学科 講師	永淵 泰一郎	保育学 幼児教育学 保育内容学(表現・環境) 保育実践	1. 幼児の絵を描く行為と内面世界に関する研究—描き出すプロセスを中心に— 2. 保育者支援の在り方と実践 3. 異年齢児保育に関する研究
現代教育学科 講師	宮村 裕子	教育行政学 社会教育行政 学社連携論	1. 学校・地域間での効果的な連携および支援に関する研究 2. 学校開放・学校支援における社会教育資源の有効活用 3. 社会教育行政における官民連携方策
現代教育学科 講師	八木 義仁	国語科教育	小学校国語科における単元開発と指導法の研究
現代教育学科 講師	Randy Muth	英語教育 語学学習 文学 日系人文学(スペイン、南米)	1. 言語学習方法 2. 言語とアイデンティティ 3. 文学における自己像の形成 4. 南米文学と日本文学のつながり、特に南米文学における俳句による影響
現代教育学科 助教	深田 将揮	英語教育学 TESOL	1. 小中高における英語教授法 2. マルチメディア教材作成・利活用 3. 外国語学習方略
現代教育学科 助教	細越 寛樹	臨床心理学 健康心理学	1. ゲシュタルト療法の実践と応用 2. 対処的悲観者の心身の健康に関する研究 3. 産業領域における抑うつ対策および予防プログラムの開発 4. 心理療法における統合的アプローチ
現代教育学科 助教	横山 朋子	音楽科教育学 幼児教育学	1. 遊びにおける幼児の音楽表現 2. 遊びを基盤とする小学校低学年の音楽科授業構成の在り方

畿央大学  
地域連携センター（企画部）

2014年3月28日発行

〒635-0832

奈良県北葛城郡広陵町馬見中4-2-2

TEL 0745-54-1601

e-mail [kikaku@kio.ac.jp](mailto:kikaku@kio.ac.jp)

*Kio*